

vSphere の移行

Update 2

VMware vSphere 6.0

VMware ESXi 6.0

vCenter Server 6.0

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-002232-01

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2017 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

- vSphere の移行について 5
- 更新情報 7
- 1 vCenter Server デプロイを vCenter Server Appliance デプロイに移行するためのシステム要件 9
- 2 vCenter Server Appliance の要件 11
 - vCenter Server Appliance のハードウェア要件 11
 - vCenter Server Appliance のストレージ要件 12
 - vCenter Server Appliance に含まれるソフトウェア 12
 - vCenter Server Appliance のソフトウェア要件 12
 - vCenter Server Appliance データベースの要件 13
 - vSphere Web Client のソフトウェア要件 13
 - vCenter Server および Platform Services Controller に必要なポート 13
- 3 移行前のチェック 19
- 4 既知の制限事項 21
- 5 移行の準備 23
 - vCenter Server を vCenter Server Appliance に移行する場合の Update Manager の新しいホストマシンへの移動 23
 - vSphere ネットワーク上の時刻の同期 26
 - 移行に向けた vCenter Server 証明書の準備 27
 - 移行に向けた vCenter Server データベースの準備 27
 - 管理対象 ESXi ホストの移行準備 30
 - クライアント統合プラグインのインストール 32
 - vCenter Server および vCenter Single Sign-On を Windows からアプライアンスに移行するために必要な情報 32
- 6 組み込みの vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server のアプライアンスへの移行 35
 - vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード 36
 - ソース vCenter Server インスタンスでの VMware Migration Assistant のコピーおよび実行 36
 - 組み込みの vCenter Single Sign-On を含む vCenter Server のアプライアンスへの移行 37
- 7 外部 vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server のアプライアンスへの移行 41
 - vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード 43
 - ソース vCenter Server インスタンスでの VMware Migration Assistant のコピーおよび実行 43
 - 外部 vCenter Single Sign-On インスタンスの Platform Services Controller アプライアンスへの移行 44
 - vCenter Server のアプライアンスへの移行 46

- 8 vCenter Server の移行後の作業 51
 - vCenter Server のインスタンス アップグレードまたは移行の確認 51
 - vCenter Server Appliance の正常な移行の確認 52
 - vSphere Web Client を使用した、vCenter Server Appliance へのログイン 52
 - 9 トラブルシューティング 55
 - 移行アシスタント ログおよびステータス ファイルの表示 55
- インデックス 57

vSphere の移行について

『vSphere の移行』ガイドでは、VMware[®] vCenter Server を vCenter Server Appliance に移行する際の情報が掲載されています。

既存の構成を保持しないフレッシュ インストールを実行して最新バージョンの vSphere に移行するには、『vSphere のインストールとセットアップ』ドキュメントを参照してください。vSphere 環境をアップグレードするには、『vSphere のアップグレード』を参照してください。移行アシスタントおよびよくある質問については、<http://kb.vmware.com/kb/2146439> を参照してください。

対象読者

本書は、vSphere を以前のバージョンから移行するユーザーを対象としています。記載されている情報は、読者に Windows または Linux のシステム管理者としての経験があり、仮想マシン テクノロジーおよびデータセンターの運用に詳しいことを想定しています。

VMware の技術ドキュメント用語集（英語版）

VMware の技術ドキュメントでは、新しい用語などを集めた用語集を提供しています。当社の技術ドキュメントで使用される用語の定義については、<http://www.vmware.com/support/pubs> をご覧ください。

更新情報

『vSphere 移行』は、製品のリリースごとに、または必要に応じて更新されます。

『vSphere 移行』の更新履歴については、次の表をご確認ください。

リビジョン	説明
JA-002232-01	<ul style="list-style-type: none">■ [vCenter Server および Platform Services Controller に必要なポート (P. 13)] にポート 9123 に関する情報を追加。■ [Microsoft SQL Server データベースの移行準備 (P. 29)] の Microsoft SQL Server データベースの準備手順を更新。■ [管理対象 ESXi ホストの移行準備 (P. 30)] の手順を更新。
JA-002232	初期リリース。

vCenter Server デプロイを vCenter Server Appliance デプロイに移行 するためのシステム要件

1

ソース システムおよびターゲット システムでは、特定のソフトウェアおよびハードウェアの要件を満たしてから vCenter Server デプロイまたは vCenter Single Sign-On デプロイを vCenter Server Appliance または Platform Services Controller アプライアンスに移行する必要があります。

ソース システム

- ソース vCenter Server サービスが実行されているすべての仮想マシンの時刻を同期します。[\[vSphere ネットワーク上の時刻の同期 \(P. 26\)\]](#) を参照してください。
- ターゲットの vCenter Server のサービスが実行されているマシンのシステム ネットワーク名が有効で、ネットワークの他のマシンから到達可能なことを確認します。
- vCenter Server の移行元となる仮想マシンのホスト名または物理サーバが RFC 1123 ガイドラインに準拠していることを確認します。
- vCenter Server サービスがローカル システム アカウント以外のユーザー アカウントを使用して実行されている場合は、vCenter Server サービスを実行しているユーザー アカウントに次のアクセス許可があることを確認します。
 - システム管理者グループのメンバー
 - サービスとしてログオン
 - オペレーティング システムの一部として動作 (ユーザーがドメイン ユーザーである場合)
- vCenter Server サービスの実行に vCenter Server データベース アクセス用のサービス ユーザー アカウントを使用し、これとは異なるアカウントで移行アシスタントを実行している場合、移行アシスタントのアカウントにはプロセス レベル トークンの置き換え権限が必要です。
- LOCAL SERVICE アカウントに、vCenter Server がインストールされるフォルダおよび HKLM レジストリに対する読み取りアクセス許可があることを確認します。
- 仮想マシンや物理サーバとドメイン コントローラの間接続が機能していることを確認します。
- Windows 上でソース vCenter Server インスタンスまたは vCenter Single Sign-On インスタンスがデフォルト ゲートウェイを保持していることを確認します。デフォルト ゲートウェイがない場合、移行は失敗します。
- Windows 上でソース vCenter Server インスタンスまたは vCenter Single Sign-On インスタンスがシステム ネットワーク名として DHCP IP アドレスを使用していないことを確認します。

重要 システム ネットワーク名として DHCP IP アドレスを使用しているソース Windows マシンからアプライアンスへの移行はサポートされていません。

ターゲット システム

- ターゲット システムは、vCenter Server Appliance の特定のソフトウェア要件およびハードウェア要件を満たす必要があります。[第 2 章 \[vCenter Server Appliance の要件 \(P. 11\)\]](#) を参照してください。

- 完全修飾ドメイン名を使用する場合は、vCenter Server Appliance のデプロイに使用するマシンとターゲット ESXi ホストまたは vCenter Server インスタンスが同じ DNS サーバに存在することを確認します。
- vSphere ネットワーク上にあるすべてのターゲット仮想マシンの時刻を同期してから移行を開始します。時刻が同期されていないと認証の問題が発生して、移行に失敗したり、vCenter Server サービスを起動できなくなることがあります。 [「vSphere ネットワーク上の時刻の同期 \(P. 26\)」](#) を参照してください。

vCenter Server Appliance の要件

vCenter Server Appliance は、ESXi ホスト 5.5 以降で移行できます。また、システムは、固有のソフトウェアおよびハードウェア要件を満たしている必要があります。

完全修飾ドメイン名を使用する場合は、vCenter Server Appliance のデプロイに使用するマシンと ESXi ホストが同じ DNS サーバに存在することを確認します。

vCenter Server を vCenter Server Appliance に移行する前に、vSphere ネットワーク上のすべての仮想マシンの時刻を同期させてください。時刻が同期されていないと認証の問題が発生して、インストールに失敗したり、vCenter Server Appliance サービスを起動できなくなることがあります。[\[vSphere ネットワーク上の時刻の同期 \(P. 26\)\]](#) を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vCenter Server Appliance のハードウェア要件 \(P. 11\)](#)
- [vCenter Server Appliance のストレージ要件 \(P. 12\)](#)
- [vCenter Server Appliance に含まれるソフトウェア \(P. 12\)](#)
- [vCenter Server Appliance のソフトウェア要件 \(P. 12\)](#)
- [vCenter Server Appliance データベースの要件 \(P. 13\)](#)
- [vSphere Web Client のソフトウェア要件 \(P. 13\)](#)
- [vCenter Server および Platform Services Controller に必要なポート \(P. 13\)](#)

vCenter Server Appliance のハードウェア要件

vCenter Server Appliance をデプロイする場合は、vSphere 環境のサイズに合ったアプライアンスをデプロイするように選択できます。選択したオプションによって、アプライアンスに搭載される CPU の数とメモリ容量が決まります。

CPU の数やメモリなどのハードウェア要件は、vSphere インベントリのサイズによって異なります。

表 2-1. VMware vCenter Server Appliance のハードウェア要件

リソース	Platform Services Controller	極小規模環境 (最大ホスト 10 台、仮想マシン 100 台)	小規模環境 (最大ホスト 100 台、仮想マシン 1,000 台)	中規模環境 (最大ホスト 400 台、仮想マシン 4,000 台)	大規模環境 (最大ホスト 1,000 台、仮想マシン 10,000 台)
CPU の数	2	2	4	8	16
メモリ	2 GB RAM	8 GB RAM	16 GB RAM	24 GB RAM	32 GB RAM

重要 vCenter Server Appliance に Platform Services Controller が組み込まれている場合、環境の規模に応じて、Platform Services Controller のハードウェア要件を vCenter Server Appliance のハードウェア要件に追加する必要があります。

vCenter Server Appliance のストレージ要件

vCenter Server Appliance をデプロイする場合、アプライアンスをデプロイするホストが最小ストレージ要件を満たしている必要があります。必要なストレージ容量は、vSphere 環境のサイズだけでなく、ディスク プロビジョニング モードによっても異なります。

ストレージの要件は、デプロイで選択するデプロイ モデルによって異なります。

表 2-2. デプロイ モデルに応じた vCenter Server の最小ストレージ要件

	Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance		外部 Platform Services Controller を備えた vCenter Server Appliance		外部 Platform Services Controller アプライアンス
	デフォルトのストレージ サイズ	大ストレージ サイズ	デフォルトのストレージ サイズ	大ストレージ サイズ	デフォルトのストレージ サイズ
極小規模環境 (最大ホスト 10 台、仮想マシン 100 台)	120 GB	700 GB	120 GB	700 GB	30 GB
小規模環境 (最大ホスト 100 台、仮想マシン 1,000 台)	150 GB	700 GB	150 GB	700 GB	30 GB
中規模環境 (最大ホスト 400 台、仮想マシン 4,000 台)	300 GB	800 GB	300 GB	800 GB	30 GB
大規模環境 (最大ホスト 1,000 台、仮想マシン 10,000 台)	450 GB	900 GB	450 GB	900 GB	30 GB

vCenter Server Appliance に含まれるソフトウェア

vCenter Server Appliance は事前に構成された Linux ベースの仮想マシンであり、vCenter Server および関連サービスの実行に最適化されています。

vCenter Server Appliance パッケージには、次のソフトウェアが含まれています。

- VMware 用 SUSE Linux Enterprise Server 11 Update 3 (64 ビット エディション)
- PostgreSQL
- vCenter Server 6.0 および vCenter Server 6.0 コンポーネント。

vCenter Server Appliance のソフトウェア要件

VMware vCenter Server Appliance は、ESXi バージョン 5.0 以降を実行しているホストでのみ移行できます。

vCenter Server Appliance を移行するには、クライアント統合プラグインを使用する以外に方法はありませぬ。Windows で動作する HTML インストーラであるクライアント統合プラグインを使用して、ESXi 5.0.x、ESXi 5.1.x、ESXi 5.5.x、または ESXi 6.0 ホストに直接接続し、そのホストに vCenter Server Appliance を移行できます。

重要 vCenter Server Appliance は、vSphere Client または vSphere Web Client を使用して移行することはできません。vCenter Server Appliance の移行時には、オペレーティング システム、vCenter Single Sign-On のパスワードなど、さまざまな入力を行う必要があります。

vCenter Server Appliance データベースの要件

vCenter Server Appliance には、サーバ データを格納および編成するためにデータベースが必要です。

各 vCenter Server Appliance インスタンスには、固有のデータベースが必要です。vCenter Server を vCenter Server Appliance に移行する場合、データベースは内部の PostgreSQL データベースに移行されます。このデータベースは、最大 1,000 台のホストおよび最大 10,000 台の仮想マシンをサポートします。

vSphere Web Client のソフトウェア要件

使用するブラウザが vSphere Web Client をサポートしていることを確認します。

vSphere Web Client 6.0 には、Adobe Flash Player 16 以降が必要です。Linux システム用の Adobe Flash Player の最新バージョンは 11.2 です。したがって、vSphere Web Client を Linux プラットフォームで実行することはできません。

次のゲスト OS とブラウザ バージョンはテスト済みであり、vSphere Web Client でサポートされています。最高のパフォーマンスを得るには、Google Chrome を使用してください。

表 2-3. vSphere Web Client でサポートされるゲスト OS およびブラウザの最小バージョン

オペレーティング システム	ブラウザ
Windows	Microsoft Internet Explorer 10.0.19 以降。 Mozilla Firefox 34 以降。 Google Chrome 39 以降。
Mac OS	Mozilla Firefox 34 以降。 Google Chrome 39 以降。

vCenter Server および Platform Services Controller に必要なポート

Windows 上とアプライアンスの両方に存在する vCenter Server システムでは、すべての管理対象ホストにデータを送信し、vSphere Web Client サービスと Platform Services Controller サービスからデータを受信できるようになっている必要があります。管理対象ホスト間での移行アクティビティやプロビジョニング アクティビティを有効にするには、送信元ホストと送信先ホスト間のデータの送受信を可能にする必要があります。

コンポーネント間の通信に必要なポート

ポートが使用中であるか、ブラックリストに登録されている場合は、vCenter Server インストーラによってエラー メッセージが表示されます。インストールを続行するには別のポート番号を使用する必要があります。プロセス間通信でのみ使用される内部ポートがあります。

VMware では、通信に指定のポートが使用されます。また、管理対象ホストでは、vCenter Server からのデータが指定ポートで監視されます。これらのいずれかの構成要素の間にファイアウォールが存在する場合は、インストールまたはアップグレード処理中にインストーラによってポートが開かれます。カスタマイズされたファイアウォールの場合は、必要なポートを手動で開く必要があります。管理対象ホスト 2 台の間にファイアウォールが存在し、移行、クローン作成など、送信元または送信先のアクティビティを実行する場合、管理対象ホストがデータを受信できるように構成する必要があります。

注意 Microsoft Windows Server 2008 以降では、デフォルトでファイアウォールが有効になっています。

ソース vCenter Server インスタンスのインストール時にカスタム ポートを設定した場合は、デフォルトのポート値に戻してから移行作業を行ってください。

表 2-4. コンポーネント間の通信に必要なポート

ポート	プロトコル	説明	目的	ノード間通信での使用
22	TCP/UDP	SSHD のシステム ポート。 重要 このポートは、アプライアンスへの移行プロセスでは開放されている必要があります。移行プロセスでは SSH 接続を確立し、既存のアプライアンスから新しいアプライアンスヘデータを転送します。	次のアプライアンスのデプロイ ■ vCenter Server ■ Platform Services Controller	なし
80	TCP	vCenter Server では、直接 HTTP 接続用にポート 80 が必要です。ポート 80 では、要求が HTTPS ポート 443 にリダイレクトされます。このリダイレクトは、https://server ではなく、誤って http://server を使用した場合に有効です。WS-Management (ポート 443 が開いていることも必要) vCenter Server と同じ仮想マシンまたは物理サーバに格納されている Microsoft SQL データベースを使用する場合は、SQL Reporting Service によってポート 80 が使用されます。vCenter Server をインストールまたはアップグレードする際、インストーラによって、vCenter Server 用の HTTP ポートの変更を求めるメッセージが表示されます。インストールまたはアップグレードを正常に実行するには、vCenter Server の HTTP ポートをカスタムの値に変更してください。 重要 このポート番号は、vCenter Server および Platform Services Controller の Windows へのインストール時に変更できません。	Windows へのインストールとアプライアンスのデプロイ ■ vCenter Server ■ Platform Services Controller	なし
88	TCP	Active Directory サーバ。	Windows のインストールと、Platform Services Controller のアプライアンスのデプロイ	なし
389	TCP/UDP	このポートは、vCenter Server のローカルインスタンスとすべてのリモート インスタンスで開いている必要があります。これは、vCenter Server グループのディレクトリ サービス用の LDAP ポート番号です。このポートで別のサービスが実行されている場合は、そのサービスを削除するか、別のポートに変更することをお勧めします。LDAP サービスを 1025 ~ 65535 の任意のポートで実行できます。 このインスタンスを Microsoft Windows Active Directory として使用する場合は、ポート番号を 389 から、1025 ~ 65535 の範囲内の使用可能なポートに変更します。	Windows のインストールと、Platform Services Controller のアプライアンスのデプロイ	■ vCenter Server から Platform Services Controller へ ■ Platform Services Controller から Platform Services Controller へ

表 2-4. コンポーネント間の通信に必要なポート (続き)

ポート	プロトコル	説明	目的	ノード間通信での使用
443	TCP	<p>vCenter Server システムが、vSphere Web Client からの接続を待機するデフォルトのポートです。vCenter Server システムが vSphere Web Client からデータを受信できるようにするには、ファイアウォールでポート 443 を開きます。</p> <p>vCenter Server システムでは、SDK クライアントからのデータ転送を監視するのにもポート 443 が使用されます。</p> <p>このポートは、次のサービスでも使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ WS-Management (ポート 80 の開放が必要) ■ サードパーティ製ネットワーク管理クライアントから vCenter Server への接続 ■ サードパーティ製ネットワーク管理クライアントからホストへのアクセス <p>重要 このポート番号は、vCenter Server および Platform Services Controller の Windows へのインストール時に変更できません。</p>	<p>Windows へのインストールとアプライアンスのデプロイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ vCenter Server ■ Platform Services Controller 	<ul style="list-style-type: none"> ■ vCenter Server から vCenter Server へ ■ vCenter Server から Platform Services Controller へ ■ Platform Services Controller から vCenter Server へ
514	UDP	<p>Windows 上の vCenter Server 用の vSphere Syslog Collector ポートと、vCenter Server Appliance 用の vSphere Syslog サービス ポート</p> <p>重要 このポート番号は、vCenter Server および Platform Services Controller の Windows へのインストール時に変更できません。</p>	<p>Windows へのインストールとアプライアンスのデプロイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ vCenter Server ■ Platform Services Controller 	なし
636	TCP	<p>vCenter Single Sign-On LDAPS</p>	<p>Windows のインストールと、Platform Services Controller のアプライアンスのデプロイ</p>	vCenter Server から Platform Services Controller へ
902	TCP/UDP	<p>vCenter Server システムが、管理対象ホストへのデータ送信に使用するデフォルトのポートです。管理対象ホストは、UDP ポート 902 を使用して、vCenter Server システムに定期的なハートビートも送信します。このポートは、サーバとホスト間、またはホスト間のファイアウォールによってブロックされないようにする必要があります。</p> <p>ポート 902 は vSphere Client とホストの間でブロックされないようにする必要があります。vSphere Client は、このポートを使用して仮想マシンのコンソールを表示します。</p> <p>重要 このポート番号は、vCenter Server の Windows へのインストール時に変更できません。</p>	<p>Windows のインストールと、vCenter Server のアプライアンスのデプロイ</p>	なし

表 2-4. コンポーネント間の通信に必要なポート (続き)

ポート	プロトコル	説明	目的	ノード間通信での使用
1514	TCP/UDP	Windows 上の vCenter Server 用の vSphere Syslog Collector TLS ポートと、vCenter Server Appliance 用の vSphere Syslog サービス TLS ポート 重要 このポート番号は、vCenter Server および Platform Services Controller の Windows へのインストール時に変更できません。	Windows へのインストールとアプライアンスのデプロイ ■ vCenter Server ■ Platform Services Controller	なし
2012	TCP	vCenter Single Sign-On の制御インターフェイス RPC	Windows のインストールと、Platform Services Controller のアプライアンスのデプロイ	■ vCenter Server から Platform Services Controller へ ■ Platform Services Controller から vCenter Server へ ■ Platform Services Controller から Platform Services Controller へ
2014	TCP	すべての VMCA (VMware 認証局) API の RPC ポート 重要 このポート番号は、Platform Services Controller の Windows へのインストール時に変更できません。	Windows のインストールと、Platform Services Controller のアプライアンスのデプロイ	■ vCenter Server から Platform Services Controller へ ■ Platform Services Controller から vCenter Server へ
2020	TCP/UDP	認証フレームワーク管理 重要 このポート番号は、vCenter Server および Platform Services Controller の Windows へのインストール時に変更できません。	Windows へのインストールとアプライアンスのデプロイ ■ vCenter Server ■ Platform Services Controller	■ vCenter Server から Platform Services Controller へ ■ Platform Services Controller から vCenter Server へ
5480	TCP	vCenter Server Appliance Web ユーザーインターフェイス (HTTPS)	次のアプライアンスのデプロイ ■ vCenter Server ■ Platform Services Controller	なし
6500	TCP/UDP	ESXi Dump Collector ポート 重要 このポート番号は、vCenter Server の Windows へのインストール時に変更できます。	Windows のインストールと、vCenter Server のアプライアンスのデプロイ	なし
6501	TCP	Auto Deploy サービス 重要 このポート番号は、vCenter Server の Windows へのインストール時に変更できます。	Windows のインストールと、vCenter Server のアプライアンスのデプロイ	なし
6502	TCP	Auto Deploy 管理 重要 このポート番号は、vCenter Server の Windows へのインストール時に変更できます。	Windows のインストールと、vCenter Server のアプライアンスのデプロイ	なし
7444	TCP	Secure Token Service	Windows のインストールと、Platform Services Controller のアプライアンスのデプロイ	■ vCenter Server から Platform Services Controller へ ■ Platform Services Controller から vCenter Server へ

表 2-4. コンポーネント間の通信に必要なポート (続き)

ポート	プロトコル	説明	目的	ノード間通信での使用
9123	TCP	移行アシスタント ポート	Windows のインストールと、vCenter Server のアプライアンスのデプロイ	ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On からターゲット vCenter Server Appliance または Platform Services Controller へ
9443	TCP	vSphere Web Client HTTPS	Windows のインストールと、vCenter Server のアプライアンスのデプロイ	なし
11711	TCP	vCenter Single Sign-On LDAP	-	vSphere 5.5 との下位互換性のためのみ。 vCenter Single Sign-On 5.5 から Platform Services Controller 6.0
11712	TCP	vCenter Single Sign-On LDAPS	-	vSphere 5.5 との下位互換性のためのみ。 vCenter Single Sign-On 5.5 から Platform Services Controller 6.0

カスタム ポート

Auto Deploy または vSphere ESXi Dump Collector 用にカスタム ポートを設定した場合は、これらのカスタム ポートはターゲット vCenter Server Appliance の設定に移行されます。たとえば、Auto Deploy を設定してポート 6545 を使用する場合、設定内容がターゲット vCenter Server Appliance に移行されます。それ以外のカスタム ポートは、vCenter Server Appliance でサポートされません。

別のポートを使用して vSphere Web Client データを受信するように vCenter Server システムを構成するには、『vCenter Server およびホスト管理』ドキュメントを参照してください。

ファイアウォールの構成の詳細については、『vSphere のセキュリティ』ドキュメントを参照してください。

移行前のチェック

Windows 上で vCenter Server または vCenter Single Sign-On をアプライアンスに移行するとき、インストーラは事前チェックを行い、ソース マシンに使用可能な容量が十分にあること、外部データベースがある場合には正常にアクセスできることなどを検証します。

ソース環境のチェック

vCenter Single Sign-On (バージョン 5.5) を移行すると、vCenter Single Sign-On は Platform Services Controller の一部に含まれます。

vCenter Server データベースにアクセスするためのサービス ユーザー アカウントで vCenter Server サービスを実行していて、別のアカウントで移行アシスタントを実行している場合、移行アシスタントのアカウントには「プロセス レベル トークンの置き換え」の権限が必要になります。

Pre-Migration Checker は、ソース環境で次の状況を確認します。

- ネットワーク接続
- 利用可能な内部および外部ポート
- Windows マシン上の管理者権限
- 入力するすべての認証情報
- サポート対象の製品とバージョン
- 移行アシスタントを起動するための管理者権限
- 利用可能な移行アシスタントのポート
- エクスポート ディレクトリの容量と権限の要件
- システム名の有効性
- インベントリ サイズの互換性
- 外部の vCenter Single Sign-On のバージョン
- vCenter Single Sign-On と vCenter Server 証明書の互換性
- NTP サーバの有効性

ターゲット環境のチェック

Pre-Migration Checker は、ターゲット環境で次の状態を確認します。

- ネットワーク接続
- ターゲット vCenter Server の IP アドレス

- プロセッサ最小要件
- メモリ最小要件
- ディスク容量最小要件
- 選択したインストール ディレクトリおよびデータ ディレクトリのアクセス権
- 利用可能な内部および外部ポート
- ターゲット ホストの管理者権限
- 入力するすべての認証情報

既知の制限事項

現在の移行アシスタントのリリースでは、いくつかの既知の制限事項があります。

次のリストには、現在サポートされていない機能やアクションが含まれています。

- vSphere Update Manager は移行されません。ご使用の環境で Update Manager を使用している場合、Update Manager を新しいターゲット マシンに手動で移行するには、さらにいくつかの手順を実行する必要があります。[「vCenter Server を vCenter Server Appliance に移行する場合の Update Manager の新しいホスト マシンへの移動 \(P. 23\)」](#) を参照してください。
- ローカル Windows OS のユーザーおよびグループは vCenter Server Appliance 6.0 の SLES OS に移行されません。vCenter Server 権限をローカル Windows OS のユーザーおよびグループに割り当てている場合、移行を実行する前に権限の割り当てを解除してください。ローカル OS のユーザーおよびグループは、移行後に vCenter Server Appliance 6.0 の SLES OS 上で再度作成することができます。
- 移行プロセスでターゲットの vCenter Server Appliance に移行するネットワーク アダプタ設定は 1 つのみです。ソースの vCenter Server のホスト名が複数のネットワーク アダプタの複数の IP アドレスを解決している場合、オプションで、移行する IP アドレスおよびネットワーク アダプタ設定を選択できます。残りのネットワーク アダプタおよび設定は、移行後にターゲットの vCenter Server Appliance に追加することができます。
- Auto Deploy、Update Manager、および vSphere ESXi Dump Collector 以外のサービスについては、カスタムポートを使用しているデプロイの移行はサポートされていません。
- 移行後、ソースの vCenter Server は、オフになり、ターゲットの vCenter Server Appliance とのネットワーク ID 競合を回避するため、オンにすることはできません。ソースの vCenter Server がオフになると、移行されていないすべてのソリューションは使用できなくなります。
- ソース仮想マシンの表示名をターゲット アプライアンスの表示名として使用することはできません。移行の完了後に表示名を変更できます。詳細については、<https://kb.vmware.com/kb/1029513> を参照してください。

移行の準備

すべてのタイプの vCenter Server デプロイをアプライアンスに移行する前に、準備タスクを完了しておく必要があります。

準備タスク：

- [「vSphere ネットワーク上の時刻の同期 \(P. 26\)」](#)
- [「移行に向けた vCenter Server データベースの準備 \(P. 27\)」](#)
- [「管理対象 ESXi ホストの移行準備 \(P. 30\)」](#)
- [「vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード \(P. 36\)」](#)
- [「ソース vCenter Server インスタンスでの VMware Migration Assistant のコピーおよび実行 \(P. 36\)」](#)

この章では次のトピックについて説明します。

- [vCenter Server を vCenter Server Appliance に移行する場合の Update Manager の新しいホスト マシンへの移動 \(P. 23\)](#)
- [vSphere ネットワーク上の時刻の同期 \(P. 26\)](#)
- [移行に向けた vCenter Server 証明書の準備 \(P. 27\)](#)
- [移行に向けた vCenter Server データベースの準備 \(P. 27\)](#)
- [管理対象 ESXi ホストの移行準備 \(P. 30\)](#)
- [クライアント統合プラグインのインストール \(P. 32\)](#)
- [vCenter Server および vCenter Single Sign-On を Windows からアプライアンスに移行するために必要な情報 \(P. 32\)](#)

vCenter Server を vCenter Server Appliance に移行する場合の Update Manager の新しいホスト マシンへの移動

Windows 上で実行する vCenter Server を vCenter Server Appliance に移行する場合、vCenter Server 導入環境で Update Manager が使用されているときは、場合により追加の手順を実行して Update Manager を新しいホスト マシンに手動で移動する必要があります。

次の場合は、Update Manager サーバおよびデータを移動する必要があります。

- Update Manager 5.5、vCenter Server、および vCenter Single Sign-On 5.5 が同一のマシン上で実行されている場合。
- Update Manager 5.5、および vCenter Single Sign-On 5.5 を同一のマシンで実行している場合。

vCenter Server が正常に vCenter Server Appliance に移行し、Update Manager をアップグレードした後で、Update Manager 5.5 が vCenter Server 5.5、および vCenter Single Sign-On 5.5 以外のマシンで実行されている場合。

vCenter Server 環境で組み込みの Update Manager が使用されている場合

Update Manager、vCenter Server、および vCenter Single Sign-On 5.5 が同一のマシンで実行されている、または Update Manager 5.5 および vCenter Single Sign-On 5.5 が同一のマシンで実行されている場合は、次の手順を実行します。

- 1 「[Update Manager サーバおよびデータベースの新しいホスト マシンへの移動 \(P. 24\)](#)」。
- 2 vCenter Server 5.5 または vCenter Single Sign-On をアプライアンスに移行します。第 6 章「[組み込みの vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server のアプライアンスへの移行 \(P. 35\)](#)」および第 7 章「[外部 vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server のアプライアンスへの移行 \(P. 41\)](#)」を参照してください。
- 3 Update Manager をターゲットの vCenter Server Appliance と同一のバージョンにアップグレードし、Update Manager をターゲットの vCenter Server Appliance に接続します。Update Manager のアップグレード方法についての詳細は、「[vSphere Update Manager](#)」ドキュメントを参照してください。

vCenter Server 環境で、外部の Update Manager が使用されている場合

Update Manager が vCenter Server 5.5 および vCenter Single Sign-On 5.5 以外のマシン上で実行されている場合、次の手順を実行します。

- 1 vCenter Server 5.5 または vCenter Single Sign-On 5.5 をアプライアンスに移行します。第 6 章「[組み込みの vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server のアプライアンスへの移行 \(P. 35\)](#)」および第 7 章「[外部 vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server のアプライアンスへの移行 \(P. 41\)](#)」を参照してください。
- 2 Update Manager をターゲットの vCenter Server Appliance と同一のバージョンにアップグレードし、Update Manager をターゲットの vCenter Server Appliance に接続します。Update Manager のアップグレード方法についての詳細は、vSphere Update Manager のドキュメントを参照してください。

Update Manager サーバおよびデータベースの新しいホスト マシンへの移動

vCenter Server 導入環境で組み込みの Update Manager が使用されている場合、Windows 上で実行されている vCenter Server インスタンスを vCenter Server Appliance に移行するには、まず Update Manager を新しいホストマシンに移動する必要があります。

開始する前に

Update Manager をインストールするため、Windows と互換性のあるバージョンの物理サーバが設定されている仮想マシンを作成します。詳細については、ナレッジベースの記事 [Supported host operating systems for VMware vCenter Server installation \(including vCenter Update Manager and vRealize Orchestrator\) \(KB2091273\)](#) を参照してください。

手順

- 1 ソース マシンで、VMware vSphere Update Manager サービスを停止します。
- 2 ソース マシンで、VMware vSphere Update Manager UFA サービスを停止します。
- 3 Update Manager データベースが Update Manager サーバと同一のマシン上にあるか、あるいは異なるマシン上にあるかによって次の手順のいずれかを実行します。
 - ◆ Update Manager データベースおよび Update Manager サーバが同じソース マシン上で実行されている場合。
 - a ソース マシンで Update Manager データベースのバックアップを実行します。
 - b ターゲット マシンで Update Manager データベースのバックアップをコピーし、データベースをリストアします。
 - ◆ Update Manager データベースおよび Update Manager サーバが異なるマシン上で実行されている場合、次の手順を実行します。

- 4 ターゲット マシン上で DSN を作成し、Update Manager データベースを指定します。
DSN の作成方法についての詳細は、『VMware vSphere Update Manager のインストールと管理』を参照してください。
- 5 ソース マシンで、[スタート メニュー] から実行ボックスまたは検索ボックスで **regedit** と入力し、Enter キーを押します。
Microsoft レジストリ エディタが開きます。
- 6 Microsoft レジストリ エディタで **HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\VMware, Inc.\VMware Update Manager** に移動します。
Microsoft レジストリ エディタには、Update Manager サーバおよびデータベースを新しいホスト マシンに移動する際に必要な Update Manager の構成値が含まれています。
- 7 ターゲット マシンでソース マシン上の Update Manager サーバインスタンスと同じバージョンの Update Manager サーバのインストールを開始します。
 - a vCenter Server 情報のページで次の作業を行います。
 - vCenter Server の IP アドレス/名前のテキスト ボックスに、ソース マシンの VCServer のレジストリ値を入力します。
 - HTTP ポートのテキスト ボックスに、ソース マシンの VCServerPort のレジストリ値を入力します。
 - ユーザー名のテキスト ボックスに、ソース マシンの VCUserName のレジストリ値を入力します。
 - 管理者として使用する vCenter Server パスワードを入力します。
 - b データベース オプションのページで [データ ソース名] ドロップダウン メニューから手順 4 で作成した DSN を選択します。
 - c (オプション) データベース情報のページでデータベースのユーザー名とパスワードを入力します。

注意 データベース パスワードは、DSN で Windows 認証を使用していない場合にのみ必要です。

データベース再初期化の警告ダイアログ ボックスが開きます。

 - d データベース再初期化の警告ダイアログ ボックスでオプション [上書きせず、既存のデータベースを残します] を選択します。
 - e VMware vSphere Update Manager ポート設定のページで、次の作業を行います。
 - ドロップダウン メニューから、Update Manager インスタンスの IP アドレスまたはホスト名を選択します。
 - SOAP ポートのテキスト ボックスに、ソース マシンの SoapPort のレジストリ値を入力します。
 - Web ポートのテキスト ボックスに、ソース マシンの WebPort のレジストリ値を入力します。
 - SSL ポートのテキスト ボックスに、ソース マシンの WebSSLPort のレジストリ値を入力します。
 - ソースのプロキシ設定に基づき、次のオプションのいずれかを実行します。
 - ソース マシンの UseProxy のレジストリ値が 1 である場合、チェック ボックスの [はい、インターネットに接続されており、ここでプロキシ設定を構成します] を選択し、ソース マシンの ProxyPassword、ProxyPort、ProxyServer、ProxyUserName のレジストリ値を入力します。
 - ソース マシンの UseProxy のレジストリ値が 0 である場合、次の手順を行います。
 - f ソース マシンと同一のパスを使用する場合、[ターゲット フォルダ] ページでソース マシンの InstallPath および PatchStore のレジストリ値を入力します。または、ターゲット マシンに異なるパスを設定します。

- 8 ソース マシンで Update Manager のデータ フォルダをコピーします。
Update Manager データが格納されているデフォルトのディレクトリは、**C:\ProgramData\VMware\VMware Update Manager\Data** です。Update Manager データ フォルダのカスタムの格納場所については、PatchStore レジストリ値を参照します。
- 9 Update Manager ソース マシンでカスタムの SslVerifyDownloadCertificate レジストリ値を使用した場合は、ターゲット マシンでも同じカスタマイズを行います。
- 10 ソース マシンで **jetty-vum-ssl.xml** または **vci-integrity.xml** ファイルを変更した場合は、ターゲット マシンでもこれらのファイルに同じ変更します。
jetty-vum-ssl.xml および **vci-integrity.xml** ファイルのデフォルトの格納場所は、**C:\Program Files (x86)\VMware\Infrastructure\Update Manager** です。
- 11 ソース マシンでカスタムの証明書を使用した場合は、ターゲット マシンに移動します。
新しい証明書の設定に、VMware vSphere Update Manager Utility を使用することができます。VMware vSphere Update Manager Utility の使用方法についての詳細は、『VMware vSphere Update Manager の再構成』ドキュメントを参照してください。
- 12 ソース マシンから Update Manager をアンインストールします。
Update Manager サーバのアンインストールに関する詳細については、『VMware vSphere Update Manager のインストールと管理』ドキュメントを参照してください。

既存の Update Manager 環境の完全なレプリカが新しいターゲット マシンにインストールされました。

次に進む前に

vCenter Server から vCenter Server Appliance への移行プロセスを開始します。

vSphere ネットワーク上の時刻の同期

vSphere ネットワーク上のすべてのコンポーネントの時刻が同期されていることを確認します。vSphere ネットワークのマシンの時刻が同期されていないと、時刻に依存する SSL 証明書は、ネットワーク上のマシン間で有効な通信と認識されないことがあります。

時刻が同期されていないと認証に問題が発生し、インストールが失敗したり、vCenter Server Appliance の vpxd サービスが起動しないことがあります。

vCenter Server が実行されるすべての Windows ホスト マシンが、ネットワーク タイム サーバ (NTP) サーバによって同期されていることを確認します。詳細は、ナレッジ ベースの記事 <http://kb.vmware.com/kb/1318> を参照してください。

ESXi の時刻を NTP サーバと同期するため、ホスト クライアント を使用できます。ESXi ホストの時刻設定の編集については、『vSphere 単一ホスト管理』を参照してください。

ネットワーク タイム サーバによる ESXi の時計の同期

vCenter Server のインストールまたは vCenter Server Appliance のデプロイの前に、vSphere ネットワーク上のすべてのマシンの時計を確実に同期させてください。

このタスクでは、vSphere Client から NTP をセットアップする方法を説明します。代わりに **vicfg-ntp** vCLI コマンドを使用できます。『vSphere Command-Line Interface Reference』を参照してください。

手順

- 1 vSphere Client を起動し、ESXi ホストに接続します。
- 2 [構成] タブで [時間の構成] をクリックします。
- 3 [プロパティ] をクリックし、[オプション] をクリックします。

- 4 [NTP 設定] を選択します。
- 5 [追加] をクリックします。
- 6 [NTP サーバの追加] ダイアログ ボックスで、同期する NTP サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。
- 7 [OK] をクリックします。
 ホスト時刻が NTP サーバと同期します。

移行に向けた vCenter Server 証明書の準備

移行プロセスを開始する前に、vCenter Server 証明書が準備されていることを確認する必要があります。

証明書ファイルの場所

vCenter Server 証明書ファイルは、`%ProgramData%\VMware\VMware VirtualCenter\SSL` に格納されています。

サポートされる証明書のタイプ

サポート対象の証明書タイプを使用している環境では、移行作業を続行できます。移行プロセスが正常に進行すれば、証明書は保持されます。

- `ru1.crt` ファイルには、リーフ証明書を含むチェーン全体が含まれます。VMware SSL Certificate Automation Tool を展開して、このタイプの証明書を作成することができます。詳しくは、<http://kb.vmware.com/kb/2057340> を参照してください。
- `ru1.crt` ファイルにはリーフ証明書が含まれているため、対応する `cacert.pem` で `ru1.crt` を検証できます。

サポートされない証明書のタイプ

サポート対象外の証明書タイプを使用している環境では、移行プロセスを開始する前に証明書を準備する必要があります。

- `ru1.crt` にリーフ証明書のみが含まれており、`cacert.pem` が見つからないまたは無効であり、かつ `cacert.pem` が Windows トラスト ストアに追加されていない場合。
 すべての中間証明書を含めた認証局 (CA) 証明書を取得し、`cacert.pem` ファイルを作成するか、サポートされているフォーマットのいずれかに vCenter Server 証明書を置き換えます。
- `ru1.crt` にリーフ証明書のみが含まれており、かつ `cacert.pem` が見つからないまたは無効であるものの、`cacert.pem` が Windows トラスト ストアに追加されている場合。

Windows トラスト ストアからすべての中間証明書を含めた認証局 (CA) 証明書を取得し、`cacert.pem` を作成します。OpenSSL を使用し、`verify -CAfile cacert.pem ru1.crt` コマンドを実行して証明書を検証します。

vSphere セキュリティ証明書の詳細については、『vSphere Security』ドキュメントを参照してください。

移行に向けた vCenter Server データベースの準備

vCenter Server Appliance インスタンスには、サーバ データを格納および編成するためのデータベースが必要です。ソース vCenter Server データベースがターゲット vCenter Server Appliance へ移行できるよう準備されていることを確認します。

各 vCenter Server Appliance インスタンスには、固有のデータベースが必要です。vCenter Server Appliance にバンドルされている PostgreSQL データベースは、最大でホスト 1,000 台と仮想マシン 10,000 台をサポートします。

重要 vCenter Server Appliance に外部データベースを使用している場合、データベースは移行時に組み込みの PostgreSQL データベースに変換されます。

データベースの移行準備の確認：

- パスワードが最新であり、十分な有効期限が設定されていることを確認します。
- vCenter Server 5.5 の場合、クリーンアップスクリプトを実行し、データベースに適切な手順に従って vCenter Server データベースの不要なデータを削除します。詳細については、
 - [「Oracle データベースの移行準備 \(P. 28\)」](#) を参照してください。
 - [「Microsoft SQL Server データベースの移行準備 \(P. 29\)」](#)
- データベースをバックアップしたことを確認します。詳細については、データベースのマニュアルを参照してください。
- vCenter Server がローカル データベースと通信できることを確認します。

インストーラによる vCenter Server の vCenter Server Appliance へ移行手順：

- 1 vCenter Server データベースをエクスポートします。
- 2 エクスポートしたデータをターゲット vCenter Server Appliance にコピーします。
- 3 PostgreSQL サービスを開始し、ソースのデータベース データをインポートします。
- 4 データベース スキーマをアップグレードし、ターゲット vCenter Server Appliance と互換性を持たせるようにします。
- 5 ターゲット vCenter Server Appliance サービスを開始します。

ターゲット vCenter Server Appliance を構成するときにインポートしたデータベースに古いスキーマを使用して初期化および構成します。移行方法は選択することができます。

- 1 コア データ
- 2 パフォーマンスなどの履歴データ

Oracle データベースの移行準備

Windows からアプライアンス内の組み込み PostgreSQL データベースに Oracle データベースを移行する前に、必要な認証情報があることと、クリーンアップなどの必要な準備を完了していることを確認します。

開始する前に

Oracle データベースの移行準備を行う前に、基本的な相互運用性を確認します。

データベースをバックアップしたことを確認します。vCenter Server データベースのバックアップの詳細については、Oracle のドキュメントを参照してください。

手順

- 1 パスワードが最新であり、十分な有効期限が設定されていることを確認します。
- 2 vCenter Server データベースで使用するログイン認証情報、データベース名、およびデータベース サーバ名があることを確認します。

ODBC システムを検索して、vCenter Server データベースのデータベース ソース名の接続名を探します。

- 3 SID の代わりに Oracle SERVICE_NAME を使用して、Oracle データベース インスタンスが使用可能であることを確認します。
 - 次のアラート ログから読み取りを行うデータベース サーバにログインします。
`$ORACLE_BASE/diag/rdbms/$instance_name/$INSTANCE_NAME/trace/alert_$INSTANCE_NAME.log`.
 - Oracle リスナーのステータス出力から読み取りを行うデータベース サーバにログインします。
 - SQL*Plus クライアントがインストールされている場合、vCenter データベース インスタンスに `tnsping` を使用できます。`tnsping` コマンドが最初に機能しない場合、数分待機した後に再試行します。再試行がうまくいかない場合、Oracle サーバ上の vCenter データベース インスタンスを再起動し、`tnsping` を再試行して使用可能であることを確認します。
- 4 JDBC ドライバ ファイルが CLASSPATH 変数に組み込まれていることを確認します。
- 5 アクセス許可が正しく設定されていることを確認します。
- 6 ユーザーに DBA ロールを割り当てるか、必要なアクセス許可を付与します。
- 7 vCenter Server 5.5 の場合、クリーンアップスクリプトを実行します。
 - a ISO イメージで `cleanup_orphaned_data_Oracle.sql` スクリプトを検索し、これを Oracle サーバにコピーします。
 - b vCenter Server データベース アカウントで SQL*Plus セッションにログインします。
 - c クリーンアップスクリプトを実行します。
`@<path>cleanup_orphaned_data_Oracle.sql`

クリーンアップ プロセスにより、どの vCenter Server コンポーネントでも使用されていない、実体のない不要なデータがパージされます。
- 8 vCenter Server データベースのフルバックアップを作成します。

データベースの vCenter Server Appliance への vCenter Server 移行の準備が完了しました。

Microsoft SQL Server データベースの移行準備

Windows からアプライアンス内の組み込み PostgreSQL データベースに Microsoft SQL Server データベースを移行する前に、必要な認証情報があることと、クリーンアップなどの必要な準備を完了していることを確認します。

重要 vCenter Server サービスが Microsoft Windows のビルトイン システム アカウントで実行されている場合、統合 Windows の認証方法は使用できません。

開始する前に

データベースをバックアップしたことを確認します。vCenter Server データベースのバックアップの詳細については、Microsoft SQL Server のドキュメントを参照してください。

手順

- 1 パスワードが最新であり、十分な有効期限が設定されていることを確認します。
- 2 vCenter Server マシンに JDK 1.6 以降がインストールされていることを確認します。
- 3 vCenter Server Appliance を移行するマシンの CLASSPATH 変数に、`sqljdbc4.jar` ファイルが追加されていることを確認します。

システムに `sqljdbc4.jar` ファイルがインストールされていない場合は、vCenter Server Appliance のインストーラによってインストールされます。

- 4 システム データベース ソース名で Microsoft SQL Server Native Client 10 または 11 のドライバが使用されていることを確認します。
- 5 vCenter Server 5.5 の場合、クリーンアップスクリプトを実行します。
 - a ISO イメージで `cleanup_orphaned_data_MSSQL.sql` スクリプトを探し、それを Microsoft SQL サーバからアクセスできる場所にコピーします。
 - b データベースにログインします。
 - Microsoft SQL Server Express の場合は、コマンド プロンプトを開きます。
 - Microsoft SQL Server の場合は、vCenter Server データベース ユーザーとして Microsoft SQL Server Management Studio セッションにログインします。
 - c クリーンアップスクリプトを実行します。
 Microsoft SQL Server Express の場合、以下のコマンドを実行します：

```
sqlcmd -E -S localhost\VIM_SQLEXP -d VIM_VCDB -i <path>/cleanup_orphaned_data_MSSQL.sql
```

 Microsoft SQL Server の場合は、`cleanup_orphaned_data_MSSQL.sql` のコンテンツを実行します。
 vCenter Server が使用しているデータベースに接続されていることを確認します。
 クリーンアップスクリプトにより、vCenter Server データベース内の不要なデータがクリーンアップされます。
- 6 vCenter Server データベースのフルバックアップを作成します。

データベースの vCenter Server Appliance への vCenter Server 移行の準備が完了しました。

管理対象 ESXi ホストの移行準備

vCenter Server インストール環境で管理されている ESXi ホストは、Windows からアプライアンスへの移行前に準備が必要となります。

開始する前に

vCenter Server または vCenter Single Sign-On を Windows からアプライアンスに移行するには、ソースおよびターゲットの ESXi ホストが移行の要件を満たす必要があります。

- ESXi ホストのバージョンは 5.5 以降である必要があります。ESXi ホストが 5.5 よりも前のバージョンの場合は、5.5 にアップグレードします。ホストを ESXi 5.5 にアップグレードするときは、ベスト プラクティスを確認し、これを実行してください。
- ターゲット ESXi ホストはロックダウンまたはメンテナンス モードにしないでください。

手順

- 1 カスタムまたはサンプリントの証明書を使用する場合、「[ホストのアップグレードと証明書 \(P. 31\)](#)」を参照して、準備手順を決定します。
- 2 vSphere HA クラスタを使用する場合、SSL 証明書の確認を有効にする必要があります。
 アップグレード時に証明書のチェックが有効になっていないと、vSphere HA はホスト上で構成に失敗します。
 - a インベントリ パネルで vCenter Server インスタンスを選択します。
 - b [管理] > [全般] タブの順に選択します。
 - c [SSL 設定] フィールドが [vCenter Server には検証済みのホスト SSL 証明書が必要です] に設定されていることを確認します。

ESXi ホストで vCenter Server アップグレードの準備が整いました。

ホストのアップグレードと証明書

ESXi ホストを ESXi 6.0 以降にアップグレードすると、アップグレード プロセスで自己署名 (サムプリント) 証明書が VMware 認証局 (VMCA) 署名付き証明書に置き換えられます。ESXi ホストがカスタムの証明書を使用している場合は、証明書が期限切れまたは無効であっても、アップグレード プロセスではその証明書が保持されます。

ホストを ESXi 6.0 以降にアップグレードしない場合、VMware 認証局 (VMCA) の証明書を使用する vCenter Server システムによってホストが管理されていても、現在使用している証明書がホストで保持されます。

推奨されるアップグレード ワークフローは、使用している証明書によって異なります。

サムプリント証明書を使用してプロビジョニングされたホスト

ホストでサムプリント証明書が使用されている場合、アップグレード プロセスの一部として VMCA 証明書が自動的に割り当てられます。

注意 VMCA 証明書を使用してレガシー ホストをプロビジョニングすることはできません。ホストは、ESXi 6.0 以降にアップグレードする必要があります。

カスタムの証明書を使用してプロビジョニングされたホスト

カスタムの証明書 (通常はサードパーティの CA 署名付き証明書) を使用してホストがプロビジョニングされている場合、アップグレード プロセスでこれらの証明書は維持されます。証明書の更新時に誤って置き換えられないように、証明書モードを [カスタム] に変更してください。

注意 VMCA モードの環境の場合、vSphere Web Client から証明書を更新すると、既存の証明書が VMCA で署名された証明書に置き換えられます。

その後、vCenter Server によって証明書が監視され、証明書の有効期限などの情報が vSphere Web Client に表示されます。

Auto Deploy でプロビジョニングされたホスト

Auto Deploy でプロビジョニングされるホストでは、ESXi 6.0 以降のソフトウェアを最初に起動したときに常に新しい証明書が割り当てられます。Auto Deploy でプロビジョニングされたホストをアップグレードする場合、Auto Deploy サーバによってホストの証明書署名要求 (CSR) が生成され、VMCA に送信されます。VMCA には、ホストの署名証明書が保存されています。Auto Deploy サーバがホストをプロビジョニングすると、VMCA から証明書を取得し、プロビジョニング プロセスの一部としてその証明書を含めます。

Auto Deploy は、カスタム証明書とともに使用できます。

証明書モードの変更

ほとんどの場合、VMCA を使用して ESXi ホストを使用環境にプロビジョニングすることが最適な解決方法になります。企業のポリシーで、異なるルート CA のカスタム証明書を使用することが求められている場合は、証明書の更新時に VMCA 証明書を使用してホストが自動的にプロビジョニングされないように vCenter Server 詳細オプションを編集できます。その後、ユーザーが使用環境で証明書を管理します。

vCenter Server 詳細設定を使用して、サムプリントモードまたはカスタム CA モードに変更できます。サムプリントモードは、フォールバック オプションとしてのみ使用します。

手順

- 1 ホストを管理する vCenter Server を選択し、[構成] をクリックします。
- 2 [詳細設定] をクリックし、[編集] をクリックします。
- 3 [フィルタ] ボックスに、「certmgmt」と入力し、証明書管理キーのみを表示します。
- 4 独自の証明書を管理する場合は vpxd.certmgmt.mode の値を [custom] に変更し、一時的にサムプリントモードを使用する場合は [thumbprint] に変更して、[OK] をクリックします。

- 5 vCenter Server サービスを再起動します。

クライアント統合プラグインのインストール

vCenter Server Appliance に移行する前に、クライアント統合プラグインをインストールする必要があります。

開始する前に

[[vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード \(P. 36\)](#)]。

手順

- 1 vCenter Server Appliance インストーラで、**vcsa** ディレクトリに移動し、**VMware-ClientIntegrationPlugin-6.0.0.exe** をダブルクリックします。
[クライアント統合プラグインのインストール] ウィザードが表示されます。
- 2 [よろこ] ページで [次へ] をクリックします。
- 3 エンド ユーザー使用許諾契約書の条項を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 4 (オプション) クライアント統合プラグインのインストール フォルダのデフォルト パスを変更し、[次へ] をクリックします。
- 5 ウィザードの [プラグインをインストールする準備ができました] ページで、情報を確認してから [インストール] をクリックします。
- 6 インストールが完了したら、[終了] をクリックします。

vCenter Server および vCenter Single Sign-On を Windows からアプライアンスに移行するために必要な情報

vCenter Server インスタンスまたは vCenter Single Sign-On インスタンスを Windows からアプライアンスへ移行する際、vCenter Server 移行ウィザードではデプロイ情報および移行情報を求めるプロンプトが表示されます。ベストプラクティスとして、アプライアンスをパワーオフし、ソースのインストール環境のリストアが必要になる場合に備えて、入力した値を記録しておきます。

このワークシートを活用して、組み込みの vCenter Single Sign-On、を使用する vCenter Server インスタンス、外部の vCenter Single Sign-On、or an または外部の vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server インスタンスを Windows からアプライアンスに移行する上で必要な情報を記録します。

重要 GUI インストーラを実行するマシンへのログインに使用するユーザー名、vCenter Server Appliance インストーラへのパス、およびパスワードを含むユーザー固有の値は ASCII 文字のみを使用する必要があります。拡張 ASCII および非 ASCII 文字はサポートされません。

ソースの Windows マシン上のローカル OS ユーザーは、ターゲットの vCenter Server Appliance に移行されないため、移行完了後に再度作成する必要があります。ローカル OS ユーザー名を使用して vCenter Single Sign-On にログインしている場合、ユーザー名を再度作成して、Platform Services Controller アプライアンスに再度権限を割り当てる必要があります。

ソース vCenter Server マシンが Active Directory ドメインに参加している場合、使用するアカウントにはドメインにマシンを再度参加させるための権限が必要です。詳しくは、<http://kb.vmware.com/kb/2146454> を参照してください。

表 5-1. vCenter Server を Windows から vCenter Server Appliance に移行するために必要な情報

必要な情報	デフォルト値	入力内容
必要なソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On 移行データ	vCenter Server または vCenter Single Sign-On の IP アドレスまたは FQDN	
	vCenter Single Sign-On 管理者ユーザー名	administrator@vsphere.local

表 5-1. vCenter Server を Windows から vCenter Server Appliance に移行するために必要な情報 (続き)

必要な情報	デフォルト値	入力内容
		vCenter Single Sign-On 管理者のパスワード
		移行アシスタント ポート番号
		vCenter Server または vCenter Single Sign-On のバージョン
		ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On が配置されたソース ESXi ホストの IP アドレスまたは FQDN
		ソース ESXi ホストの管理者権限を持つ、ソース ESXi のホスト ユーザー名
		ソース ESXi ホストのパスワード
	パフォーマンスなどの履歴データの移行	デフォルトでは無効
必要なターゲット vCenter Server Appliance データ		ソース vCenter Server を移行するために vCenter Server Appliance をデプロイする、ターゲット ESXi ホストまたは vCenter Server インスタンスの IP アドレスまたは FQDN
		ターゲット ESXi ホストの管理者権限をもつユーザー名。または、ソース インストールを移行する vCenter Server インスタンス、データセンターまたはデータセンター フォルダ、および ESXi ホストまたは DRS クラスタのリソース プール
		ターゲット ESXi ホストのパスワード。または、vCenter Server インスタンス、データセンターまたはデータセンター フォルダ、および ESXi ホストまたは DRS クラスタのリソース プール
		vCenter Single Sign-On パスワード
		vCenter Single Sign-On ドメイン名
		vCenter Single Sign-On サイト名
		ターゲット vCenter Server Appliance 名
		root ユーザーのパスワード
	vCenter Server Appliance のサイズ。vSphere 環境のサイズに応じて、次の各オプションがあります。	極小 (最大でホスト 20 台、仮想マシン 400 台)
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 極小 (最大でホスト 20 台、仮想マシン 400 台) ■ 小 (最大でホスト 150 台、仮想マシン 3,000 台) ■ 中 (最大でホスト 300 台、仮想マシン 6,000 台) ■ 大 (最大でホスト 1,000 台、仮想マシン 10,000 台) 	
		vCenter Server Appliance の新バージョンがデプロイされるデータストアの名前
	シン ディスク モードの有効化または無効化	デフォルトでは無効

表 5-1. vCenter Server を Windows から vCenter Server Appliance に移行するために必要な情報 (続き)

必要な情報	デフォルト値	入力内容
	VMware カスタマ エクスペリエンス改善プログラム (CEIP) に参加する、または参加しない。 CEIP の詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』の「カスタマ エクスペリエンス改善プログラムの設定」セクションを参照してください。	CEIP に参加する
ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On およびターゲット vCenter Server Appliance 間の通信に使用する一時的なネットワーク	IP アドレスバージョン IP アドレスの割り当て方法	IPv4 固定
重要 一時的なネットワークの IP アドレスまたはポートグループは、ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On と同じサブネット上にある必要があります。デフォルト ゲートウェイ、IP アドレス、およびサブネット マスクが選択するポートグループと一致することを確認してください。選択するポートグループにより、ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On の IP アドレスが取得可能である必要があります。		
静的割り当ての設定	ネットワーク アドレス サブネット マスク ネットワーク ゲートウェイ ネットワーク DNS サーバ (コンマで区切り)	
SSH の有効化または無効化		デフォルトでは無効
移行アシスタント ポート番号		9123 または移行アシスタント コンソールに表示されているポート番号

組み込みの vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server のアプライアンスへの移行

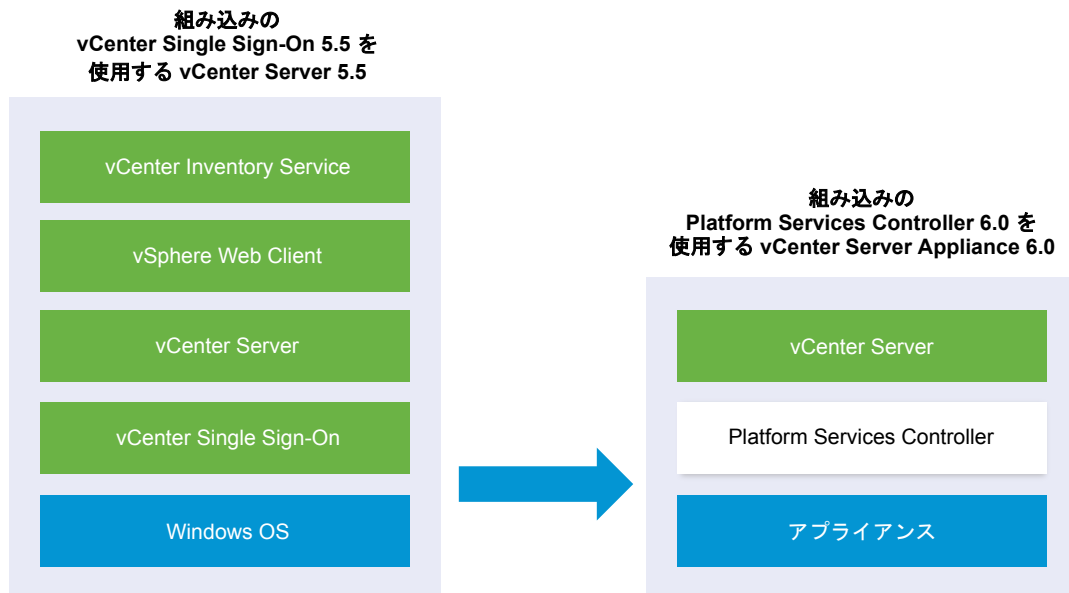
6

組み込みの vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server インスタンスを組み込みの Platform Services Controller アプライアンスを含む vCenter Server Appliance に移行できます。

Windows 上の組み込みの vCenter Single Sign-On (バージョン 5.5) を使用する vCenter Server から、組み込みの Platform Services Controller アプライアンスを含む vCenter Server Appliance に移行すると、インストール環境全体が同時に移行されます。

vCenter Inventory Service、vSphere Web Client、vSphere Auto Deploy、または vSphere ESXi Dump Collector が、組み込みの vCenter Single Sign-On を使用するソース vCenter Server とは別のマシンにインストールされている場合、これらのコンポーネントはターゲット vCenter Server Appliance に移行されます。

図 6-1. 組み込みの vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server 5.5 の移行前と移行後



重要 GUI インストーラを実行するマシンへのログインに使用するユーザー名、vCenter Server Appliance インストーラへのパス、およびパスワードを含むユーザー固有の値は ASCII 文字のみを使用する必要があります。拡張 ASCII 文字および非 ASCII 文字はサポートされていません。

インストーラは以下を実行します。

- 新しいターゲット アプライアンスを導入する。
- ソース vCenter Server から必要なファイルをエクスポートする。
- 必要なファイルを新しい vCenter Server Appliance にコピーする。

- [サマリ] の指定に従い、新しい vCenter Server Appliance で移行のプロセスを実行する。
- ソース vCenter Server インストールのファイルと設定を新しい vCenter Server Appliance にインポートおよび更新する。

開始する前に

[vCenter Server および vCenter Single Sign-On を Windows からアプライアンスに移行するために必要な情報 (P. 32)] を構築します。

手順

- 1 [vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード \(P. 36\)](#)
vCenter Server Appliance の `.iso` インストーラとクライアント統合プラグインをダウンロードします。
- 2 [ソース vCenter Server インスタンスでの VMware Migration Assistant のコピーおよび実行 \(P. 36\)](#)
ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On で VMware Migration Assistant をコピーおよび実行して Windows からアプライアンスへ移行の準備を行います。
- 3 [組み込みの vCenter Single Sign-On を含む vCenter Server のアプライアンスへの移行 \(P. 37\)](#)
クライアント統合プラグインを使用し、組み込みの vCenter Single Sign-On インスタンスを使用する vCenter Server 5.5.x を、Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance 6.0 に移行できます。

vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード

vCenter Server Appliance の `.iso` インストーラとクライアント統合プラグインをダウンロードします。

開始する前に

<https://my.vmware.com/web/vmware/> で My VMware アカウントを作成します。

手順

- 1 VMware の Web サイト (<https://my.vmware.com/web/vmware/downloads>) から vCenter Server Appliance のインストーラをダウンロードします。
- 2 md5sum が正しいことを確認します。
MD5 チェックサムの使用については、VMware Web サイトのトピックをご覧ください (<http://www.vmware.com/download/md5.html>)。
- 3 ISO イメージを Windows 仮想マシンにマウントするか、ソースの vCenter Server または vCenter Single Sign-On とは別の物理サーバにマウントします。クライアント統合プラグインをインストールする Windows 仮想マシンまたは物理サーバに ISO イメージをマウントし、vCenter Server Appliance を移行します。
Windows 仮想マシンを使用している場合、vSphere Web Client を使用し、仮想マシンの CD/DVD ドライブ用のデータストア ISO ファイルとして ISO イメージを構成できます。vSphere の仮想マシン管理 を参照してください。

ソース vCenter Server インスタンスでの VMware Migration Assistant のコピーおよび実行

ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On で VMware Migration Assistant をコピーおよび実行して Windows からアプライアンスへ移行の準備を行います。

ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On 上で VMware Migration Assistant を使用して次を実行：

- 1 ソース デプロイ タイプの検出。
- 2 ソースでの事前チェックの実行。
- 3 移行開始前に解決する必要があるエラーのレポート。

4 移行プロセスの次の手順に関する情報の提供。

重要 移行プロセスでは、移行アシスタント ウィンドウを開いた状態にしておくようにします。移行アシスタントを閉じると、移行プロセスが停止します。

開始する前に

- [\[vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード \(P. 36\)\]](#)
- vCenter Server データベースにアクセスするためのサービス ユーザー アカウントで vCenter Server サービスを実行していて、別のアカウントで移行アシスタントを実行している場合、移行アシスタントのアカウントには「**アクセス レベル トークンの置き換え**」の権限が必要になります。

手順

- 1 vCenter Server Appliance インストーラ パッケージの **migration-assistant** ディレクトリに移動し、migration-assistant フォルダをソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On インスタンスにコピーします。
- 2 移行アシスタントを起動します。
 - **VMware-Migration-Assistant.exe** をダブルクリックします。
 - コマンドラインから **VMware-Migration-Assistant.exe --help** を実行して、移行アシスタントを起動し [ヘルプ] オプションを表示します。

VMware Migration Assistant が事前移行チェックを実行し、移行開始前に発見されたすべてのエラーの解決を求めるプロンプトを表示します。
- 3 vCenter Server インスタンスの管理者権限を持つユーザー（たとえば、administrator@vsphere.local ユーザー）のユーザー名とパスワードを入力します。

事前チェックが完了し、すべてのエラーが解決されると、ソース システムの移行準備が整います。

次に進む前に

移行を開始するには、VMware Migration Assistant の指示に従います。



記憶 移行が完了するまで移行アシスタント ウィンドウを開いたままにしておきます。

組み込みの vCenter Single Sign-On を含む vCenter Server のアプライアンスへの移行

クライアント統合プラグインを使用し、組み込みの vCenter Single Sign-On インスタンスを使用する vCenter Server 5.5.x を、Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance 6.0 に移行できます。

開始する前に

- ESXi ホスト上にターゲット vCenter Server Appliance を展開する場合、ESXi ホストがロックダウンまたはメンテナンス モードでないことを確認します。
- vCenter Server インベントリの DRS クラスタにターゲット vCenter Server Appliance を展開する場合、クラスタにロックダウンまたはメンテナンス モードでない ESXi ホストが 1 台以上含まれていることを確認します。
- アプライアンスの一時ネットワーク設定で固定 IP アドレスを割り当てる場合、IP アドレスに正引きおよび逆引きの DNS レコードが構成されていることを確認します。
- 新しいアプライアンスの一時ネットワーク設定で DHCP IP アドレスを割り当てる場合、新しいアプライアンスを展開する ESXi ホストが既存の vCenter Server が実行されている ESXi ホストと同じネットワーク上にあることを確認します。

- 新しいアプライアンスの一時ネットワーク設定で DHCP IPv4 アドレスを割り当てる場合、新しいアプライアンスを展開する ESXi ホストが MAC アドレスの変更を許可するポート グループに関連付けられた 1 つ以上のネットワークに接続されていることを確認します。MAC アドレスの変更を拒否する場合は、分散仮想スイッチのデフォルトのセキュリティ ポリシーの使用を検討してください。スイッチまたはポート グループへのセキュリティ ポリシーの設定の詳細については、「vSphere ネットワーク」を参照してください。

手順

- 1 ソフトウェア インストーラのディレクトリで、[vcsa-setup.html] をダブルクリックします。
- 2 ブラウザがクライアント統合プラグインを検出するまで 3 秒ほど待機し、プロンプトが表示されたらブラウザ上でプラグインを実行できるようにします。
- 3 ホーム ページで、[移行] をクリックします。
- 4 [概要] ページを確認し、移行のプロセスについて理解したら [次へ] をクリックします。
- 5 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 6 vCenter Server Appliance をデプロイするターゲット サーバに接続します。

オプション	手順
アプライアンスのデプロイ先 ESXi ホストに接続できます。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ESXi ホストの完全修飾ドメイン名 (FQDN) のアドレスまたは IP アドレスを入力します。 2 ESXi ホストの HTTPS ポートを入力します。 3 ESXi ホストの管理者権限を持つユーザー (たとえば、root ユーザー) のユーザー名とパスワードを入力します。 4 [次へ] をクリックします。 5 証明書の警告にターゲット ESXi ホストにインストールされた SSL 証明書の SHA1 サンプルが表示されたことを確認したら、[はい] をクリックして証明書のサムプリントを承認します。
vCenter Server インスタンスに接続してインベントリを参照し、アプライアンスを展開する ESXi ホストまたは DRS クラスタを選択できます。DRS クラスタを選択する場合、クラスタが展開中に完全自動化 DRS に設定されていないことを確認します。	<ol style="list-style-type: none"> 1 vCenter Server インスタンスの FQDN アドレスまたは IP アドレスを入力します。 2 vCenter Server インスタンスの HTTPS ポートを入力します。 3 vCenter Server インスタンスの vCenter Single Sign-On 管理者権限を持つユーザー (たとえば、administrator@vsphere.local ユーザー) のユーザー名とパスワードを入力します。 4 [次へ] をクリックします。 5 証明書の警告にターゲット vCenter Server インスタンスにインストールされた SSL 証明書の SHA1 サンプルが表示されたことを確認したら、[はい] をクリックして証明書のサムプリントを承認します。 6 アプライアンスをデプロイする ESXi ホストまたは DRS クラスタが含まれるデータセンターまたはデータセンター フォルダを選択し、[次へ] をクリックします。 注意 ロックダウン モードまたはメンテナンス モードでない ESXi ホストが 1 台以上含まれるデータセンターまたはデータセンター フォルダを選択する必要があります。 7 アプライアンスをデプロイする ESXi ホストまたは DRS クラスタを選択し、[次へ] をクリックします。

- 7 (オプション) 警告メッセージが表示される場合は、[はい] をクリックして受け入れます。
- 8 [仮想マシンのセットアップ] ページで、新しい vCenter Server Appliance の名前を入力し、root ユーザーのパスワードを設定して、[次へ] をクリックします。

パスワードの長さは 8 文字以上とし、1 つ以上の数字、大文字と小文字、1 つ以上の特殊文字 (感嘆符 (!)、ハッシュキー (#)、アット記号 (@)、丸括弧 (()) など) が含まれている必要があります。

注意 古いアプライアンスの root パスワードはアップグレードされた新しいアプライアンスに転送されません。

- 9 (オプション) [SSH の有効化] チェック ボックスを選択して、vCenter Server Appliance への SSH 接続を有効にします。

- 10 ソースへの接続についてのページで、ソース vCenter Server インスタンスの詳細を入力し、[次へ] をクリックします。
 - a IP アドレスまたは FQDN を入力します。
 - b vCenter Server インスタンスの管理者権限を持つユーザー（たとえば、administrator@vsphere.local ユーザー）のユーザー名とパスワードを入力します。
 - c 移行アシスタントの指示で受けた移行アシスタントのポートを入力します。
 - d (オプション) このデータを移行する場合、[パフォーマンスなどの履歴データ] を選択します。
デフォルトでは、コア インベントリと構成データのみが移行されます。vCenter Server のパフォーマンス データおよび統計、イベント、アラーム、タスクなどの履歴データをすべて移行するにはチェック ボックスを選択します。このデータを移行しない場合、全体のダウンタイムが短縮されます。
- 11 (オプション) 警告メッセージが表示される場合は、[はい] をクリックして受け入れます。
- 12 ソース vCenter Server が Active Directory ドメインに属している場合、ターゲット vCenter Server Appliance をドメインに参加させるための認証情報を提供します。
- 13 ウィザードの [アプライアンスのサイズの選択] ページで、vSphere インベントリ サイズに適した vCenter Server Appliance サイズを選択し、[次へ] をクリックします。

オプション	説明
極小 (最大でホスト 10 台、仮想マシン 100 台)	CPU 2 個、8 GB のメモリ、120 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
小 (最大でホスト 100 台、仮想マシン 1,000 台)	CPU 4 個、16 GB のメモリ、150 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
中 (最大でホスト 400 台、仮想マシン 4,000 台)	CPU 8 個、24 GB のメモリ、300 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
大 (最大でホスト 1,000 台、仮想マシン 10,000 台)	CPU 16 個、32 GB のメモリ、450 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
極小 (最大でホスト 10 台、仮想マシン 100 台、大規模のストレージ)	CPU 2 個、8 GB のメモリ、700 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
小 (最大でホスト 100 台、仮想マシン 1,000 台、大規模のストレージ)	CPU 4 個、16 GB のメモリ、700 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
中 (最大でホスト 400 台、仮想マシン 4,000 台、大規模のストレージ)	CPU 8 個、24 GB のメモリ、800 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
大 (最大でホスト 1,000 台、仮想マシン 10,000 台)	CPU 16 個、32 GB のメモリ、900 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。

- 14 利用可能なデータストアのリストから、仮想マシンのすべての構成ファイルと仮想ディスクが格納される場所を選択します。また必要に応じて、[シンディスク モードの有効化] を選択して、シン プロビジョニングを有効にします。
- 15 一時ネットワークの設定ページで、ネットワーク設定を行います。
アプライアンスの IP アドレスまたは FQDN は、システム名として使用されます。FQDN を使用することが推奨されます。IP アドレスを使用する場合は、アプライアンスに固定 IP アドレスを割り当ててください。DHCP によって割り当てられる IP アドレスは、変更される可能性があるためです。

オプション	アクション
[ネットワークの選択]	<p>新しいアプライアンスが一時的に接続するネットワークを選択します。</p> <p>一時ネットワークで、ソース vCenter Server とターゲット vCenter Server Appliance 間の接続が提供されていることを確認します。</p> <p>ドロップダウンメニューに表示されるネットワークは、ターゲット サーバのネットワーク設定によって異なります。アプライアンスを ESXi ホストに直接デプロイする場合は、短期のポートバインド以外の設定をしている分散仮想ポートグループはサポートされません。このため、このグループはドロップダウンメニューに表示されません。</p> <p>重要 DHCP 割り当てを使用して一時 IPv4 アドレスを割り当てる場合、MAC アドレスの変更を許可するポートグループに関連付けられたネットワークを選択する必要があります。</p>
[ネットワークタイプ]	<p>アプライアンスの IP アドレスの割り当て方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [スタティック] <p>IP アドレスとネットワーク設定の入力を求められます。</p> ■ [DHCP] <p>DHCP サーバを使用して IP アドレスが割り当てられます。環境内で DHCP サーバを使用できる場合にのみ、このオプションを選択します。</p>

システム名として IP アドレスを使用する場合は、デプロイ後に IP アドレスを変更して DNS の設定を更新することはできません。

- 16 [VMware カスタマ エクスペリエンス改善プログラム (CEIP)] ページを参照し、プログラムへの参加を希望するかどうかを選択します。

CEIP の詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』の「カスタマ エクスペリエンス改善プログラムの設定」セクションを参照してください。

- 17 [設定の確認] ページで、vCenter Server Appliance 移行の設定を確認し、[終了] をクリックしてプロセスを完了します。

ソースの vCenter Server が Windows からアプライアンスに移行されます。ソースの vCenter Server はパワーオフされ、新しいアプライアンスが起動します。

ソースの vCenter Single Sign-On が Windows からアプライアンスに移行されます。Windows 上の古い vCenter Single Sign-On はパワーオフされ、新しいアプライアンスが起動します。

次に進む前に

アプライアンスへの移行が正常に完了したことを確認します。確認の手順については、[\[vCenter Server Appliance の正常な移行の確認 \(P. 52\)\]](#) を参照してください。

外部 vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server のアプライアンスへの移行

7

外部 vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server をアプライアンスに移行できます。

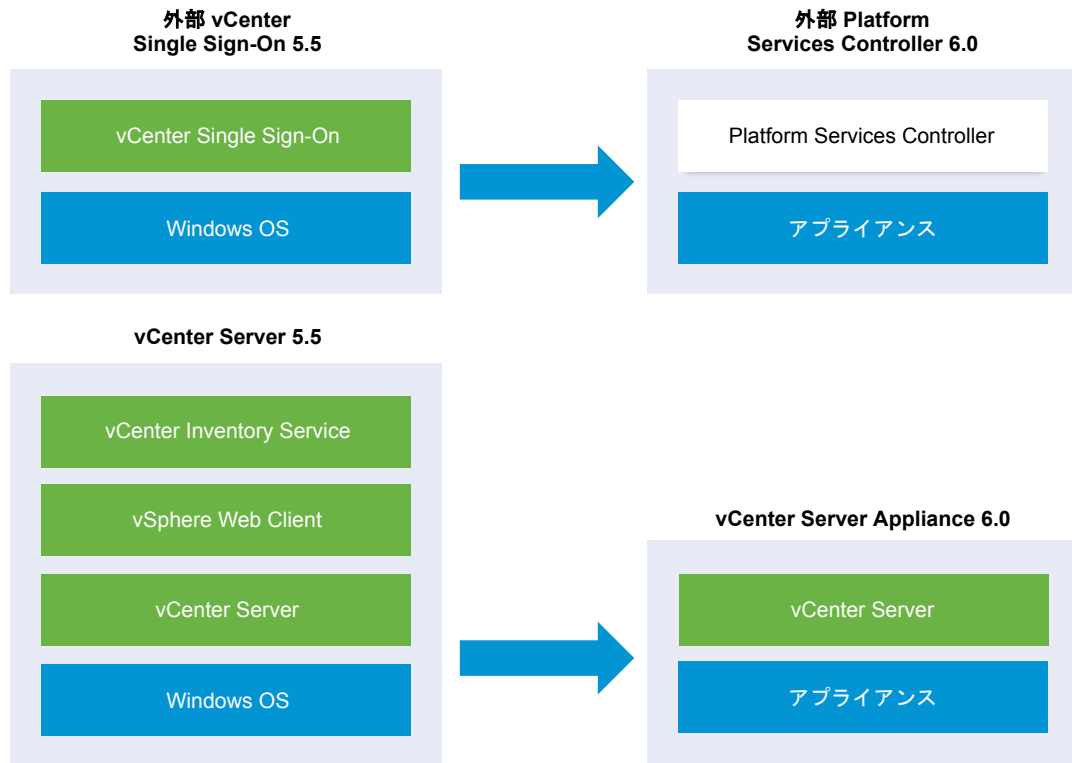
Windows 上の外部 vCenter Single Sign-On (バージョン 5.5) を含む vCenter Server から、外部 Platform Services Controller アプライアンスを含む vCenter Server Appliance に移行する場合は、以下の 2 段階の手順で移行します。

- 1 まず、vCenter Single Sign-On インスタンスを Windows からアプライアンスに移行します。
- 2 次に、vCenter Server インスタンスを Windows からアプライアンスに移行します。

重要 vCenter Single Sign-On インスタンスの同時移行はサポートされていません。インスタンスは連続して移行する必要があります。複数の vCenter Single Sign-On ノードがある場合は、最初にすべての vCenter Single Sign-On ノードを Platform Services Controller アプライアンスに移行してから、vCenter Server から vCenter Server Appliance への移行を開始します。

vCenter Inventory Service、vSphere Web Client、vSphere Auto Deploy、または vSphere ESXi Dump Collector が、組み込みの vCenter Single Sign-On を使用するソース vCenter Server とは別のマシンにインストールされている場合、これらのコンポーネントはターゲット vCenter Server Appliance に移行されます。

図 7-1. 外部 vCenter Single Sign-On を使用する vCenter Server 5.5 の移行前と移行後



重要 GUI インストーラを実行するマシンへのログインに使用するユーザー名、vCenter Server Appliance インストーラへのパス、およびパスワードを含むユーザー固有の値は ASCII 文字のみを使用する必要があります。拡張 ASCII 文字および非 ASCII 文字はサポートされていません。

インストーラは、移行対象の各ノードに対し以下を実行します。

- 新しいターゲット アプライアンスを導入する。
- ソース vCenter Single Sign-On インスタンスから必要なファイルをエクスポートする。
- 移行に必要なファイルをターゲット アプライアンスにコピーする。
- [サマリ] の指定に従い、ターゲット アプライアンスに移行のプロセスを実行する。
- ソース vCenter Single Sign-On インスタンスのファイルと設定を新しいアプライアンスにインポートおよび更新する。

開始する前に

[\[vCenter Server および vCenter Single Sign-On を Windows からアプライアンスに移行するために必要な情報 \(P. 32\)\]](#) を構築します。

手順

- 1 [vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード \(P. 43\)](#)
vCenter Server Appliance の .iso インストーラとクライアント統合プラグインをダウンロードします。
- 2 [ソース vCenter Server インスタンスでの VMware Migration Assistant のコピーおよび実行 \(P. 43\)](#)
ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On で VMware Migration Assistant をコピーおよび実行して Windows からアプライアンスへ移行の準備を行います。

- 3 [外部 vCenter Single Sign-On インスタンスの Platform Services Controller アプライアンスへの移行 \(P. 44\)](#)
クライアント統合プラグインを使用して外部 vCenter Single Sign-On インスタンスを Platform Services Controller アプライアンスに移行することができます。
- 4 [vCenter Server のアプライアンスへの移行 \(P. 46\)](#)
クライアント統合プラグインを使用して、vCenter Server 5.5.x を Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance 6.0 に移行できます。

vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード

vCenter Server Appliance の `.iso` インストーラとクライアント統合プラグインをダウンロードします。

開始する前に

<https://my.vmware.com/web/vmware/> で My VMware アカウントを作成します。

手順

- 1 VMware の Web サイト (<https://my.vmware.com/web/vmware/downloads>) から vCenter Server Appliance のインストーラをダウンロードします。
- 2 md5sum が正しいことを確認します。
MD5 チェックサムの使用については、VMware Web サイトのトピックをご覧ください (<http://www.vmware.com/download/md5.html>)。
- 3 ISO イメージを Windows 仮想マシンにマウントするか、ソースの vCenter Server または vCenter Single Sign-On とは別の物理サーバにマウントします。クライアント統合プラグインをインストールする Windows 仮想マシンまたは物理サーバに ISO イメージをマウントし、vCenter Server Appliance を移行します。

Windows 仮想マシンを使用している場合、vSphere Web Client を使用し、仮想マシンの CD/DVD ドライブ用のデータストア ISO ファイルとして ISO イメージを構成できます。vSphere の仮想マシン管理 を参照してください。

ソース vCenter Server インスタンスでの VMware Migration Assistant のコピーおよび実行

ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On で VMware Migration Assistant をコピーおよび実行して Windows からアプライアンスへ移行の準備を行います。

ソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On 上で VMware Migration Assistant を使用して次を実行：

- 1 ソース デプロイ タイプの検出。
- 2 ソースでの事前チェックの実行。
- 3 移行開始前に解決する必要があるエラーのレポート。
- 4 移行プロセスの次の手順に関する情報の提供。

重要 移行プロセスでは、移行アシスタント ウィンドウを開いた状態にしておくようにします。移行アシスタントを閉じると、移行プロセスが停止します。

開始する前に

- [\[vCenter Server Appliance のインストーラのダウンロード \(P. 36\)\]](#)
- vCenter Server データベースにアクセスするためのサービス ユーザー アカウントで vCenter Server サービスを実行していて、別のアカウントで移行アシスタントを実行している場合、移行アシスタントのアカウントには「**プロセス レベル トークンの置き換え**」の権限が必要になります。

手順

- 1 vCenter Server Appliance インストーラ パッケージの **migration-assistant** ディレクトリに移動し、migration-assistant フォルダをソース vCenter Server または vCenter Single Sign-On インスタンスにコピーします。
- 2 移行アシスタントを起動します。
 - **VMware-Migration-Assistant.exe** をダブルクリックします。
 - コマンドラインから **VMware-Migration-Assistant.exe --help** を実行して、移行アシスタントを起動し [ヘルプ] オプションを表示します。

VMware Migration Assistant が事前移行チェックを実行し、移行開始前に発見されたすべてのエラーの解決を求めるプロンプトを表示します。
- 3 vCenter Server インスタンスの管理者権限を持つユーザー（たとえば、administrator@vsphere.local ユーザー）のユーザー名とパスワードを入力します。

事前チェックが完了し、すべてのエラーが解決されると、ソース システムの移行準備が整います。

次に進む前に

移行を開始するには、VMware Migration Assistant の指示に従います。



記憶 移行が完了するまで移行アシスタント ウィンドウを開いたままにしておきます。

外部 vCenter Single Sign-On インスタンスの Platform Services Controller アプライアンスへの移行

クライアント統合プラグインを使用して外部 vCenter Single Sign-On インスタンスを Platform Services Controller アプライアンスに移行することができます。

開始する前に

- ESXi ホスト上に新しい Platform Services Controller を展開する場合、ESXi ホストがロックダウンまたはメンテナンス モードでないことを確認します。
- vCenter Server インベントリの DRS クラスタに Platform Services Controller を展開する場合、クラスタにロックダウンまたはメンテナンス モードでない ESXi ホストが 1 台以上含まれていることを確認します。
- アプライアンスの一時ネットワーク設定で固定 IP アドレスを割り当てる場合、IP アドレスに正引きおよび逆引きの DNS レコードが構成されていることを確認します。
- 新しいアプライアンスの一時ネットワーク設定で DHCP IP アドレスを割り当てる場合、新しいアプライアンスを展開する ESXi ホストが既存の vCenter Server が実行されている ESXi ホストと同じネットワーク上にあることを確認します。
- 新しいアプライアンスの一時ネットワーク設定で DHCP IPv4 アドレスを割り当てる場合、新しいアプライアンスを展開する ESXi ホストが MAC アドレスの変更を許可するポート グループに関連付けられた 1 つ以上のネットワークに接続されていることを確認します。MAC アドレスの変更を拒否する場合は、分散仮想スイッチのデフォルトのセキュリティ ポリシーの使用を検討してください。スイッチまたはポート グループへのセキュリティ ポリシーの設定の詳細については、「vSphere ネットワーク」を参照してください。

手順

- 1 ソフトウェア インストーラのディレクトリで、[vcsa-setup.html] をダブルクリックします。
- 2 ブラウザがクライアント統合プラグインを検出するまで 3 秒ほど待機し、プロンプトが表示されたらブラウザ上でプラグインを実行できるようにします。
- 3 ホーム ページで、[移行] をクリックします。

- 4 [概要] ページを確認し、移行のプロセスについて理解したら [次へ] をクリックします。
- 5 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 6 Platform Services Controller をデプロイするターゲット サーバに接続します。

オプション	手順
アプライアンスのデプロイ先 ESXi ホストに接続できます。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ESXi ホストの完全修飾ドメイン名 (FQDN) のアドレスまたは IP アドレスを入力します。 2 ESXi ホストの HTTPS ポートを入力します。 3 ESXi ホストの管理者権限を持つユーザー (たとえば、root ユーザー) のユーザー名とパスワードを入力します。 4 [次へ] をクリックします。 5 証明書の警告にターゲット ESXi ホストにインストールされた SSL 証明書の SHA1 サムプリントが表示されたことを確認したら、[はい] をクリックして証明書のサムプリントを承認します。
vCenter Server インスタンスに接続してインベントリを参照し、アプライアンスを展開する ESXi ホストまたは DRS クラスタを選択できます。	<ol style="list-style-type: none"> 1 vCenter Server インスタンスの FQDN アドレスまたは IP アドレスを入力します。 2 vCenter Server インスタンスの HTTPS ポートを入力します。 3 vCenter Server インスタンスの vCenter Single Sign-On 管理者権限を持つユーザー (たとえば、administrator@vsphere.local ユーザー) のユーザー名とパスワードを入力します。 4 [次へ] をクリックします。 5 証明書の警告にターゲット vCenter Server インスタンスにインストールされた SSL 証明書の SHA1 サムプリントが表示されたことを確認したら、[はい] をクリックして証明書のサムプリントを承認します。 6 アプライアンスをデプロイする ESXi ホストまたは DRS クラスタが含まれるデータセンターまたはデータセンター フォルダを選択し、[次へ] をクリックします。 注意 ロックダウン モードまたはメンテナンス モードでない ESXi ホストが 1 台以上含まれるデータセンターまたはデータセンター フォルダを選択する必要があります。 7 アプライアンスをデプロイする ESXi ホストまたは DRS クラスタを選択し、[次へ] をクリックします。

- 7 (オプション) 警告メッセージが表示される場合は、[はい] をクリックして受け入れます。
- 8 [仮想マシンのセットアップ] ページで、Platform Services Controller の名前を入力し、root ユーザーのパスワードを設定して、[次へ] をクリックします。

パスワードの長さは 8 文字以上とし、1 つ以上の数字、大文字と小文字、1 つ以上の特殊文字 (感嘆符 (!)、ハッシュキー (#)、アット記号 (@)、丸括弧 ()) などが含まれている必要があります。
- 9 (オプション) [SSH の有効化] チェック ボックスを選択して、vCenter Server Appliance への SSH 接続を有効にします。
- 10 ソースへの接続についてのページで、ソースの vCenter Single Sign-On インスタンスの詳細を入力し、[次へ] をクリックします。
 - a IP アドレスまたは FQDN を入力します。
 - b vCenter Single Sign-On インスタンスの管理者権限を持つユーザー (たとえば、administrator@vsphere.local ユーザー) のユーザー名とパスワードを入力します。
 - c 移行アシスタントの指示で受けた移行アシスタントのポートを入力します。
- 11 (オプション) 警告メッセージが表示される場合は、[はい] をクリックして受け入れます。
- 12 ソースの vCenter Single Sign-On が Active Directory ドメインに属している場合、ターゲット Platform Services Controller をドメインに参加させるための認証情報を提供します。
- 13 ウィザードの [アプライアンスのサイズの選択] ページで、[次へ] をクリックします。

ターゲットの Platform Services Controller アプライアンスは、CPU 2 個、2 GB のメモリ、30 GB のディスク容量でデプロイされます。
- 14 利用可能なデータストアのリストから、仮想マシンのすべての構成ファイルと仮想ディスクが格納される場所を選択します。また必要に応じて、[シン ディスク モードの有効化] を選択して、シン プロビジョニングを有効にします。

- 15 一時ネットワークの設定ページで、ネットワーク設定を行います。

アプライアンスの IP アドレスまたは FQDN は、システム名として使用されます。FQDN を使用することが推奨されます。IP アドレスを使用する場合は、アプライアンスに固定 IP アドレスを割り当ててください。DHCP によって割り当てられる IP アドレスは、変更される可能性があるためです。

オプション	アクション
[ネットワークの選択]	<p>新しいアプライアンスが一時的に接続するネットワークを選択します。</p> <p>一時ネットワークで、ソース vCenter Server とターゲット vCenter Server Appliance 間の接続が提供されていることを確認します。</p> <p>ドロップダウンメニューに表示されるネットワークは、ターゲット サーバのネットワーク設定によって異なります。アプライアンスを ESXi ホストに直接デプロイする場合は、短期のポートバインド以外の設定をしている分散仮想ポートグループはサポートされません。このため、このグループはドロップダウンメニューに表示されません。</p> <p>重要 DHCP 割り当てを使用して一時 IPv4 アドレスを割り当てる場合、MAC アドレスの変更を許可するポートグループに関連付けられたネットワークを選択する必要があります。</p>
[ネットワークタイプ]	<p>アプライアンスの IP アドレスの割り当て方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [スタティック] <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスとネットワーク設定の入力を求められます。 ■ [DHCP] <ul style="list-style-type: none"> DHCP サーバを使用して IP アドレスが割り当てられます。環境内で DHCP サーバを使用できる場合にのみ、このオプションを選択します。

システム名として IP アドレスを使用する場合は、デプロイ後に IP アドレスを変更して DNS の設定を更新することはできません。

- 16 [VMware カスタマ エクスペリエンス改善プログラム (CEIP)] ページを参照し、プログラムへの参加を希望するかどうかを選択します。

CEIP の詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』の「カスタマ エクスペリエンス改善プログラムの設定」セクションを参照してください。

- 17 [設定の確認] ページで、vCenter Single Sign-On 移行の設定を確認し、[終了] をクリックしてプロセスを完了します。

ソースの vCenter Single Sign-On が Windows からアプライアンスに移行されます。Windows 上の古い vCenter Single Sign-On はパワーオフされ、新しいアプライアンスが起動します。

次に進む前に

アプライアンスへの移行が正常に完了したことを確認します。確認の手順については、[\[vCenter Server Appliance の正常な移行の確認 \(P. 52\)\]](#) を参照してください。

新しい Platform Services Controller アプライアンスで別の Platform Services Controller インスタンスを含むインフラストラクチャ データを複製する場合、vCenter Single Sign-On ドメインに参加しているすべての vCenter Single Sign-On インスタンスを同じバージョンに移行またはアップグレードする必要があります。

参加しているすべての vCenter Single Sign-On インスタンスの移行後、vCenter Single Sign-On ドメイン内の vCenter Server インスタンスを移行できます。vCenter Server インスタンスのアプライアンスへの移行に関する詳細については、以下を参照してください。

vCenter Server のアプライアンスへの移行

クライアント統合プラグインを使用して、vCenter Server 5.5.x を Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance 6.0 に移行できます。

開始する前に

- ESXi ホスト上にターゲット vCenter Server Appliance を展開する場合、ESXi ホストがロックダウンまたはメンテナンス モードでないことを確認します。

- vCenter Server インベントリの DRS クラスタにターゲット vCenter Server Appliance を展開する場合、クラスタにロックダウンまたはメンテナンス モードでない ESXi ホストが 1 台以上含まれていることを確認します。
- アプライアンスの一時ネットワーク設定で固定 IP アドレスを割り当てる場合、IP アドレスに正引きおよび逆引きの DNS レコードが構成されていることを確認します。
- 新しいアプライアンスの一時ネットワーク設定で DHCP IP アドレスを割り当てる場合、新しいアプライアンスを展開する ESXi ホストが既存の vCenter Server が実行されている ESXi ホストと同じネットワーク上にあることを確認します。
- 新しいアプライアンスの一時ネットワーク設定で DHCP IPv4 アドレスを割り当てる場合、新しいアプライアンスを展開する ESXi ホストが MAC アドレスの変更を許可するポート グループに関連付けられた 1 つ以上のネットワークに接続されていることを確認します。MAC アドレスの変更を拒否する場合は、分散仮想スイッチのデフォルトのセキュリティ ポリシーの使用を検討してください。スイッチまたはポート グループへのセキュリティ ポリシーの設定の詳細については、「vSphere ネットワーク」を参照してください。

手順

- 1 ソフトウェア インストーラのディレクトリで、[vcsa-setup.html] をダブルクリックします。
- 2 ブラウザがクライアント統合プラグインを検出するまで 3 秒ほど待機し、プロンプトが表示されたらブラウザ上でプラグインを実行できるようにします。
- 3 ホーム ページで、[移行] をクリックします。
- 4 [概要] ページを確認し、移行のプロセスについて理解したら [次へ] をクリックします。
- 5 使用許諾契約書を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 6 vCenter Server Appliance をデプロイするターゲット サーバに接続します。

オプション	手順
アプライアンスのデプロイ先 ESXi ホストに接続できます。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ESXi ホストの完全修飾ドメイン名 (FQDN) のアドレスまたは IP アドレスを入力します。 2 ESXi ホストの HTTPS ポートを入力します。 3 ESXi ホストの管理者権限を持つユーザー (たとえば、root ユーザー) のユーザー名とパスワードを入力します。 4 [次へ] をクリックします。 5 証明書の警告にターゲット ESXi ホストにインストールされた SSL 証明書の SHA1 サムプリントが表示されたことを確認したら、[はい] をクリックして証明書のサムプリントを承認します。
vCenter Server インスタンスに接続してインベントリを参照し、アプライアンスを展開する ESXi ホストまたは DRS クラスタを選択できます。DRS クラスタを選択する場合、クラスタが展開中に完全自動化 DRS に設定されていないことを確認します。	<ol style="list-style-type: none"> 1 vCenter Server インスタンスの FQDN アドレスまたは IP アドレスを入力します。 2 vCenter Server インスタンスの HTTPS ポートを入力します。 3 vCenter Server インスタンスの vCenter Single Sign-On 管理者権限を持つユーザー (たとえば、administrator@vsphere.local ユーザー) のユーザー名とパスワードを入力します。 4 [次へ] をクリックします。 5 証明書の警告にターゲット vCenter Server インスタンスにインストールされた SSL 証明書の SHA1 サムプリントが表示されたことを確認したら、[はい] をクリックして証明書のサムプリントを承認します。 6 アプライアンスをデプロイする ESXi ホストまたは DRS クラスタが含まれるデータセンターまたはデータセンター フォルダを選択し、[次へ] をクリックします。 <p>注意 ロックダウン モードまたはメンテナンス モードでない ESXi ホストが 1 台以上含まれるデータセンターまたはデータセンター フォルダを選択する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 アプライアンスをデプロイする ESXi ホストまたは DRS クラスタを選択し、[次へ] をクリックします。

- 7 (オプション) 警告メッセージが表示される場合は、[はい] をクリックして受け入れます。

- 8 [仮想マシンのセットアップ] ページで、新しい vCenter Server Appliance の名前を入力し、root ユーザーのパスワードを設定して、[次へ] をクリックします。

パスワードの長さは 8 文字以上とし、1 つ以上の数字、大文字と小文字、1 つ以上の特殊文字（感嘆符 (!)、ハッシュキー (#)、アット記号 (@)、丸括弧 (()) など）が含まれている必要があります。

注意 古いアプライアンスの root パスワードはアップグレードされた新しいアプライアンスに転送されません。

- 9 (オプション) [SSH の有効化] チェック ボックスを選択して、vCenter Server Appliance への SSH 接続を有効にします。
- 10 ソースへの接続についてのページで、ソース vCenter Server インスタンスの詳細を入力し、[次へ] をクリックします。
- IP アドレスまたは FQDN を入力します。
 - vCenter Server インスタンスの管理者権限を持つユーザー（たとえば、administrator@vsphere.local ユーザー）のユーザー名とパスワードを入力します。
 - 移行アシスタントの指示で受けた移行アシスタントのポートを入力します。
 - (オプション) このデータを移行する場合、[パフォーマンスなどの履歴データ] を選択します。
- デフォルトでは、コア イベントリと構成データのみが移行されます。vCenter Server のパフォーマンス データおよび統計、イベント、アラーム、タスクなどの履歴データをすべて移行するにはチェック ボックスを選択します。このデータを移行しない場合、全体のダウンタイムが短縮されます。
- 11 (オプション) 警告メッセージが表示される場合は、[はい] をクリックして受け入れます。
- 12 ソース vCenter Server が Active Directory ドメインに属している場合、ターゲット vCenter Server Appliance をドメインに参加させるための認証情報を提供します。
- 13 ウィザードの [アプライアンスのサイズの選択] ページで、vSphere インベントリ サイズに適した vCenter Server Appliance サイズを選択し、[次へ] をクリックします。

オプション	説明
極小 (最大でホスト 10 台、仮想マシン 100 台)	CPU 2 個、8 GB のメモリ、120 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
小 (最大でホスト 100 台、仮想マシン 1,000 台)	CPU 4 個、16 GB のメモリ、150 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
中 (最大でホスト 400 台、仮想マシン 4,000 台)	CPU 8 個、24 GB のメモリ、300 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
大 (最大でホスト 1,000 台、仮想マシン 10,000 台)	CPU 16 個、32 GB のメモリ、450 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
極小 (最大でホスト 10 台、仮想マシン 100 台、大規模のストレージ)	CPU 2 個、8 GB のメモリ、700 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
小 (最大でホスト 100 台、仮想マシン 1,000 台、大規模のストレージ)	CPU 4 個、16 GB のメモリ、700 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
中 (最大でホスト 400 台、仮想マシン 4,000 台、大規模のストレージ)	CPU 8 個、24 GB のメモリ、800 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。
大 (最大でホスト 1,000 台、仮想マシン 10,000 台)	CPU 16 個、32 GB のメモリ、900 GB のディスク容量を持つアプライアンスをデプロイします。

- 14 利用可能なデータストアのリストから、仮想マシンのすべての構成ファイルと仮想ディスクが格納される場所を選択します。また必要に応じて、[シン ディスク モードの有効化] を選択して、シン プロビジョニングを有効にします。

- 15 一時ネットワークの設定ページで、ネットワーク設定を行います。

アプライアンスの IP アドレスまたは FQDN は、システム名として使用されます。FQDN を使用することが推奨されます。IP アドレスを使用する場合は、アプライアンスに固定 IP アドレスを割り当ててください。DHCP によって割り当てられる IP アドレスは、変更される可能性があるためです。

オプション	アクション
[ネットワークの選択]	<p>新しいアプライアンスが一時的に接続するネットワークを選択します。</p> <p>一時ネットワークで、ソース vCenter Server とターゲット vCenter Server Appliance 間の接続が提供されていることを確認します。</p> <p>ドロップダウンメニューに表示されるネットワークは、ターゲットサーバのネットワーク設定によって異なります。アプライアンスを ESXi ホストに直接デプロイする場合は、短期のポートバインド以外の設定をしている分散仮想ポートグループはサポートされません。このため、このグループはドロップダウンメニューに表示されません。</p> <p>重要 DHCP 割り当てを使用して一時 IPv4 アドレスを割り当てる場合、MAC アドレスの変更を許可するポートグループに関連付けられたネットワークを選択する必要があります。</p>
[ネットワークタイプ]	<p>アプライアンスの IP アドレスの割り当て方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [スタティック] <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスとネットワーク設定の入力を求められます。 ■ [DHCP] <ul style="list-style-type: none"> DHCP サーバを使用して IP アドレスが割り当てられます。環境内で DHCP サーバを使用できる場合にのみ、このオプションを選択します。

システム名として IP アドレスを使用する場合は、デプロイ後に IP アドレスを変更して DNS の設定を更新することはできません。

- 16 [VMware カスタマ エクスペリエンス改善プログラム (CEIP)] ページを参照し、プログラムへの参加を希望するかどうかを選択します。

CEIP の詳細については、『vCenter Server およびホスト管理』の「カスタマ エクスペリエンス改善プログラムの設定」セクションを参照してください。

- 17 [設定の確認] ページで、vCenter Server Appliance 移行の設定を確認し、[終了] をクリックしてプロセスを完了します。

ソースの vCenter Server が Windows からアプライアンスに移行されます。ソースの vCenter Server はパワーオフされ、新しいアプライアンスが起動します。

次に進む前に

アプライアンスへの移行が正常に完了したことを確認します。確認の手順については、[\[vCenter Server Appliance の正常な移行の確認 \(P. 52\)\]](#) を参照してください。

vCenter Server の移行後の作業

vCenter Server Appliance への移行後は、アップグレード後のオプションと要件を検討してください。

- 移行ログを確認することができます。[「移行アシスタント ログおよびステータス ファイルの表示 \(P. 55\)」](#)を参照してください。
- アップグレード中に変更が要求された可能性のある、すべてのコンポーネントの再構成を行います。
- 認証プロセスについてよく理解しておいてください。また、アイデンティティソースを確認しておきます。
- vSphere Update Manager など、vCenter Server Appliance のそのインスタンスにリンクされている追加モジュールをアップグレードします。
- 必要に応じて、vCenter Server Appliance インベントリの ESXi ホストを、vCenter Server Appliance インスタンスと同じバージョンにアップグレードまたは移行します。

vCenter Server Appliance の設定については、『vSphere のインストールとセットアップ』、『vSphere のアップグレード』、および『vCenter Server Appliance の構成』を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vCenter Server のインスタンス アップグレードまたは移行の確認 \(P. 51\)](#)
- [vCenter Server Appliance の正常な移行の確認 \(P. 52\)](#)
- [vSphere Web Client を使用した、vCenter Server Appliance へのログイン \(P. 52\)](#)

vCenter Server のインスタンス アップグレードまたは移行の確認

ターゲット vCenter Server Appliance を確認して、Windows 上の vCenter Server から移行されたか、または vCenter Server Appliance から移行されたかを判別できます。

手順

- ◆ vCenter Server Appliance シェルにログインし、次のコマンドを実行します。

```
install-parameter upgrade.source.platform
```

このコマンドによって、ソース プラットフォームの vCenter Server インスタンスが返されます (たとえば、windows)。

次に進む前に

[「vCenter Server Appliance の正常な移行の確認 \(P. 52\)」](#)

vCenter Server Appliance の正常な移行の確認

vCenter Server Appliance が正常に移行したかどうかを確認することができます。

移行した vCenter Server インスタンスにログインする必要があります。必要な情報のリファレンスを作成した場合、リファレンスを使用して正常な移行を検証することができます。

手順

- 1 IP アドレスが正しいことを確認します。
- 2 Active Directory 登録が変更されていないことを確認します。
- 3 ネットワーク登録が正しいことを確認します。
- 4 ドメインが正しいことを確認します。
- 5 証明書が有効であることを確認します。
- 6 インベントリ データが正しく移行されていることを確認します。
 - a イベント履歴を確認します。
 - b パフォーマンス チャートを確認します。
 - c ユーザー、権限、およびロールを確認します。

アップグレード後の構成または移行後の構成が必要な情報または CLI テンプレート リファレンスおよび期待値と一致する場合、vCenter Server のアップグレードまたは移行は完了です。

次に進む前に

ログを確認すると、予期しない動作のトラブルシューティングを行うことができます。

vSphere Web Client を使用した、vCenter Server Appliance へのログイン

vSphere Web Client を使用して vCenter Server Appliance にログインし、vSphere インベントリを管理できます。

開始する前に

vSphere 6.0 では、vSphere Web Client が vCenter Server Appliance デプロイの一部としてインストールされています。このようにして、vSphere Web Client では、常に同じ vCenter Single Sign-On インスタンスが指定されます。

手順

- 1 Web ブラウザを開き、vSphere Web Client の URL (https://<vcenter_server_ip_address_or_fqdn>/vsphere-client) を入力します。
- 2 vCenter Server に対する権限があるユーザーの認証情報を入力し、[ログイン] をクリックします。
- 3 信頼されない SSL 証明書に関する警告メッセージが表示された場合は、セキュリティ ポリシーに従って適切な操作を選択します。

オプション	操作
このログインセッションについてのみセキュリティ警告を無視する。	[無視] をクリックします。
このログインセッションについてセキュリティ警告を無視し、デフォルトの証明書をインストールして警告が再度表示されないようにする。	[この証明書をインストールし、このサーバに対するセキュリティ警告をすべて表示しない] を選択し、[無視] をクリックします。 デフォルトの証明書を使用しても環境にセキュリティ上の問題が発生しない場合のみ、このオプションを選択してください。
キャンセルして、署名済み証明書をインストールしてから先に進む。	[キャンセル] をクリックし、署名済み証明書が vCenter Server システムにインストールされたのを確認してから、再度接続を試みます。

vSphere Web Client が指定されたユーザーが権限を持つすべての vCenter Server Appliance システムに接続され、インベントリを表示および管理できるようになります。

トラブルシューティング

vSphere 移行のトラブルシューティングのトピックでは、vCenter Server 移行プロセス中に発生する可能性のある問題に対する対処方法を提供します。

移行のロールバックに関する詳細については、<http://kb.vmware.com/kb/2146453> を参照してください。

移行アシスタント ログおよびステータス ファイルの表示

移行アシスタント ログ ファイルおよびステータス ファイルを使用して失敗した移行のトラブルシューティングを行うことができます。

移行が失敗した場合、移行アシスタントはログ ファイル バンドルをデスクトップに生成します。

手順

- 1 デスクトップ フォルダに移動し、**VMware-MA-logs-<time-of-migration-attempt>.zip** ファイルを開きます。<time-of-migration-attempt> には、移行を試行した年、月、日、時間、分、および秒が示されます。
- 2 デスクトップの **.zip** ファイルからログ ファイルを取得します。
- 3 他のログ ファイルおよびステータス ファイルを取得します。

表 9-1. ソース vCenter Server または vCenter Server Single Sign-On のログ ファイルおよびステータス ファイルの保存場所

ファイル	場所
移行アシスタント ログ ファイル	%temp%\migration-assistant.log
事前チェック ログ ファイル	%temp%\vcsMigration\UpgradeRunner.log
事前チェック コンポーネント ログ ファイル	%temp%\vcsMigration\CollectRequirements_<ComponentName>.log
ログ ファイルのエクスポート	%temp%\vcsMigration\UpgradeRunner.log
コンポーネント ログ ファイルのエクスポート	%temp%\vcsMigration\Export_<ComponentName>.log
ステータス ファイル	%temp%\UpgradeRunnerExportOutput.json

表 9-2. ターゲット vCenter Server Appliance または Platform Services Controller のログ ファイルおよびステータス ファイルの保存場所

ファイル	場所
ログ ファイル	/var/log/vmware/upgrade/UpgradeRunner.log /var/log/vmware/upgrade/upgrade-requirements.log
ドメイン参加ログ ファイル	/tmp/lwidentity.join.log
ログ ファイルのエクスポート	/var/log/vmware/upgrade/UpgradeRunner.log /var/log/vmware/upgrade/upgrade-export.log
初回起動コンポーネント ログ ファイル	/var/log/firstboot/<ComponentName>-firstboot.py_##_stdout.log /var/log/firstboot/<ComponentName>-firstboot.py_##_stderr.log
ログ ファイルのインポート	/var/log/vmware/upgrade/UpgradeRunner.log /var/log/vmware/upgrade/upgrade-import.log
事前チェック ステータス ファイル	/var/log/vmware/upgrade/prechecks.json
ステータス ファイルのエクスポート	/var/log/vmware/upgrade/export.json
初回起動ステータス ファイル	/var/log/vmware/firstbootStatus.json
ステータス ファイルのインポート	/var/log/vmware/upgrade/import.json

次に進む前に

ログ ファイルを調査して、障害の原因を特定します。

インデックス

E

- ESXi カスタム証明書モード 31
- ESXi サムプリント証明書モード 31

G

- GUI 移行
 - 概要 35
 - 組み込みの事例 41

M

- MSSQL サーバ データベース、移行の準備 29
- MSSQL データベースを使用した vCenter Server の移行 29

O

- Oracle データベース、移行の準備 28
- Oracle データベースを使用した vCenter Server の移行 28

V

- vCenter Server
 - 移行 55
 - 移行後の検討事項 51
 - ポート 13
 - ログイン 52
- vCenter Server Appliance
 - GUI 移行の概要 35
 - .iso のダウンロード 36, 43
 - Windows からの移行 41
 - 移行 37, 44, 46
 - 移行アシスタント 36, 43
 - 移行の前提要件 37, 44, 46
 - インストーラのダウンロード 36, 43
 - 事前定義のソフトウェア 12
 - ソフトウェア要件 11, 12
 - ハードウェア要件 11
- vCenter Server Appliance データベース、要件 13
- vCenter Server Appliance の移行 37, 44, 46
- vCenter Server Appliance のインストーラ 36, 43
- vCenter Server Appliance への移行後の検討事項 51
- vCenter Server for Windows
 - root パスワード 32
 - 移行ワークシート 32
- vCenter Server が使用するポート 13
- vCenter Server の移行、GUI の使用 35
- vCenter Server の移行のための ESXi ホストの準備 30

- vCenter Server へのログイン 52
- vpxd.certmgmt.mode 31
- vSphere Web Client、要件 13
- vSphere Web Client の要件 13
- vSphere ネットワーク上の ESXi の時計の同期 26
- vSphere ネットワーク上の時刻の同期 26

W

- Windows 上の vCenter Server、vCenter Server Appliance への移行 41

い

- 移行
 - Update Manager 23, 24
 - 既知の制限事項 21
- 移行アシスタント、制限事項 21
- 移行の制限事項 21
- 移行のソース システム要件 9
- 移行のターゲット システム要件 9
- 移行前のチェック 19
- 移行前のデータベースの準備
 - MSSQL サーバ 29
 - Oracle 28
- 移行ログファイル、vCenter Server のウィザード ページ 55
- 移動、Update Manager 23, 24

か

- カスタムの証明書 31

き

- 極小規模環境、必要なストレージ容量 12

く

- クライアント、ファイアウォール 13
- クライアント統合プラグイン、インストール 32

こ

- 更新情報 7

さ

- サムプリント証明書 31

し

- 事前定義のソフトウェア、vCenter Server Appliance 12
- 小規模環境、必要なストレージ容量 12

証明書、ホストのアップグレード 31
証明書の準備 27

す

ストレージの要件、vCenter Server Appliance 12

せ

正常な移行、確認 52

そ

ソース プラットフォームの確認 51
ソフトウェア要件、vCenter Server Appliance 12

た

大規模環境、必要なストレージ容量 12
対象読者 5

ち

中規模環境、必要なストレージ容量 12

て

データベース、移行のための準備 27
データベース要件、vCenter Server Appliance 13

と

トラブルシューティング
vCenter Server Appliance の移行 55
vCenter Server の移行 55

は

ハードウェア要件、vCenter Server Appliance 11

ひ

必要なストレージ容量 12

ふ

ファイアウォール 13

ほ

ポート
設定 13
ファイアウォール 13
ポートの設定 13
ホストのアップグレードと証明書 31
ホストのファイアウォール 13

よ

用語集 5

ろ

ロールバック、移行 55

わ

ワークシート 32